

# ときがわ町観光振興計画

～ 人と自然の優しいお出迎え ときがわ ～



ときがわ町

平成22年3月



## ときがわ町観光振興計画の策定にあたって

平成18年2月1日、市町村合併によりときがわ町が誕生し、4年が経過いたしました。ときがわ町は、都心から約1時間という地理的条件にありながら、自然あふれる木々の温もりや、四季折々に咲き誇る花々、悠久の川の流れが織りなす豊かな自然に抱かれた町として、先人からの文化を継承してまいりました。



本町は、このように、豊かな自然資源や歴史、文化に恵まれ、首都圏からの交通アクセスに優れていることもあり、多くの方が訪れる、観光地としての要素が十分に備わった、魅力的な町といえます。

また、国におきましては、平成19年1月に「観光立国推進基本法」が施行されるなど、国をあげて「観光立国」実現に向けて動き出しており、今日における「観光」は、経済効果や雇用の創出にもつながる産業となりつつあります。

本町におきましては、「人と自然の優しさにふれるまち」を将来像とする、「第一次総合振興計画」を策定し、各施策を着実に推進しているところでありますが、この総合振興計画における主要施策の一つである「新たな観光の創出」に基づき、共通の目標として、「ときがわ町観光振興計画」を策定いたしました。

本計画では基本理念を、「人と自然の優しいお出迎え ときがわ」として、観光の振興に関する長期的、総合的な施策を推進することを定めております。

その実現に向けまして、町民の皆様をはじめ、観光協会や事業者の皆様と連携し、ご協力をいただきながら、関係団体、町とともに一体となり取り組んでまいります。

結びに、本計画を策定するに当たり、多大なるご尽力をいただきました「ときがわ町観光振興計画検討委員会」の皆様はもとより、様々なご意見をいただきました関係者、町民の皆様に深く感謝申し上げます。本計画の実現に今後ともご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年3月

ときがわ町長 関口 定男



# 目 次

第1章 計画策定の主旨・背景	1
1 計画策定の主旨・背景	1
2 計画期間	1
3 計画の位置づけ	2
4 策定体制	3
第2章 ときがわ町の現状と課題	5
1 ときがわ町の観光の現状	5
(1) 町の観光資源	5
(2) ときがわ町の観光紹介記事等	8
(3) 入込観光客数の動向	9
(4) 町の産業動向と観光振興	12
(5) 来訪者及び町民、施設従業者の意見	14
2 課題と方向性	20
(1) 計画検討委員会の意見	20
(2) ときがわ町の観光をめぐる課題と方向性	21
第3章 計画の目指す方向	23
1 計画の理念と基本方向	23
(1) 基本理念	23
(2) 基本方向	24
2 重点事業	25
第4章 計画の内容	27
基本方向1 ときがわ観光ひとづくり(仲間づくり)	27
1-1 町民意識の高揚	27
1-2 公認案内人の育成・確保・活用	28
1-3 後継者等の育成	29
1-4 町の宣伝マンの育成	29
1-5 地元企業等の連携・協力	30
1-6 観光関係事業所との連携強化	30
基本方向2 ときがわ観光ものづくり(空間づくり)	31
2-1 案内標識の整備	31
2-2 観光案内施設・休憩施設の整備	32
2-3 観光資源の開発・整備	33
2-4 町有施設の充実	35
2-5 交通システムの整備	36

基本方向3 ときがわ観光ことづくり（時間づくり）	37
3 - 1 ときがわの体験メニューの開発	37
3 - 2 食とお土産品の開発	38
3 - 3 観光情報の提供体制の強化	39
3 - 4 誘客力の強化	40
3 - 5 観光振興体制の強化	41
個別事業の実施期間	42
第5章 計画の推進にあたって	49
<hr/>	
1 計画の推進	49
(1) 数値目標	49
(2) 計画推進上の留意点	49
(3) 観光協会の役割	50
(4) 計画の進捗状況の評価・点検	50
資料編	51
<hr/>	
計画策定の経過	51
検討委員会（ワークショップ）の主な意見	52
観光の“売り”としたい「もの」や「こと」「しくみ」「ひと」など	54
町の強みと弱み、時代背景の追い風と逆風	58
ときがわ町の観光資源（平成21年度 町ホームページから）	62
町有施設の概要	67
ときがわ町観光の楽しみ方（ワークショップで提案されたモデルコース）	77
検討委員会の要綱、名簿等	79



---

## 第 1 章 計画策定の主旨・背景

---





# 1 計画策定の主旨・背景

ときがわ町は平成 19 年に「人と自然の優しさにふれるまち ときがわ」を将来像とする、「第一次ときがわ町総合振興計画」を策定し、各種施策・事業を着実に推進しています。この「第一次ときがわ町総合振興計画」の重点プロジェクトのひとつに「新しい地域創造プロジェクト」があり、「新たな観光の創出」を図ることが位置づけられています。

また、国の動向としては、平成 20 年には国土交通省に「観光庁」が設置され、国内外の観光の活性化を図ることとなりました。

さらに、今後の観光振興は、従来のように観光事業者が観光商品を開発する“発地型観光”ではなく、地域が自らの発想と創造力で地域固有の観光商品を開発する“着地型観光”が重要な視点となっています。そのため、近年、農業・商業をはじめとした地域産業全体を活性化する糸口として、観光振興を進める自治体も多くなってきています。

ときがわ町観光振興計画（以下、「本計画」と略す）においては、ときがわ町が今後「観光振興による地域づくり＝“観光まちづくり”」に取り組むために必要な施策や事業を取りまとめたものです。

# 2 計画期間

本計画は「第一次ときがわ町総合振興計画」との整合性に配慮し、計画期間を平成 22 年度から平成 28 年度までの 7 年間とします。

計画の期間

区分	年度										
	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	
第一次ときがわ町総合振興計画	←-----→										
ときがわ町観光振興計画				←-----→							

### 3 計画の位置づけ

本計画は、上位計画である第一次ときがわ町総合振興計画の将来都市像「人と自然の優しさにふれるまち」の具体的な実現に向けた、分野別計画として位置づけられます。

また、本計画の策定については、国及び県の観光振興に関する計画や方向性等を踏まえ策定します。

#### 計画の位置づけ

第一次ときがわ町総合振興計画  
将来都市像  
「人と自然の優しさにふれるまち」

【施策目標指標】

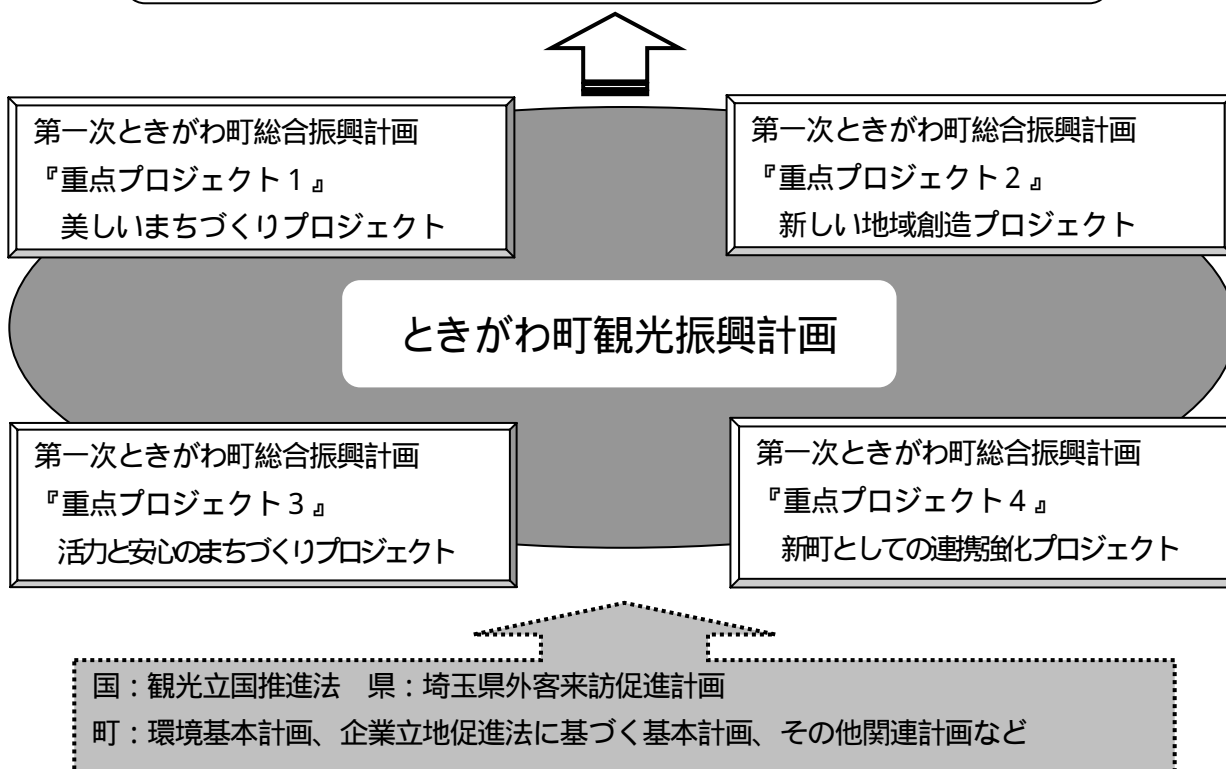
交流人口（千人）

現状（18年度）	目標（23年度）	目標（28年度）
622.1	700.4	736.1

観光消費額（百万円）

現状（18年度）	目標（23年度）	目標（28年度）
644.2	704.2	740.1

交流人口等は、既に平成20年度において841.9千人と目標指数を上回る実績となっています。そのため、今後、総合振興計画後期基本計画において指標を再検討します。



## 4 策定体制

本計画の策定体制は、以下のとおりです。

### 検討委員会による審議

本計画の策定にあたって、学識経験者や町の観光振興に関わる商工、農林業、NPO、観光関連企業等の代表者及び町の関係各課職員による「ときがわ町観光振興計画検討委員会」を設置して、審議並びに検討を行ってきました。

また、具体的な計画の方向性を検討するにあたっては、ワークショップを開催し、具体的な検討を進めてきました。

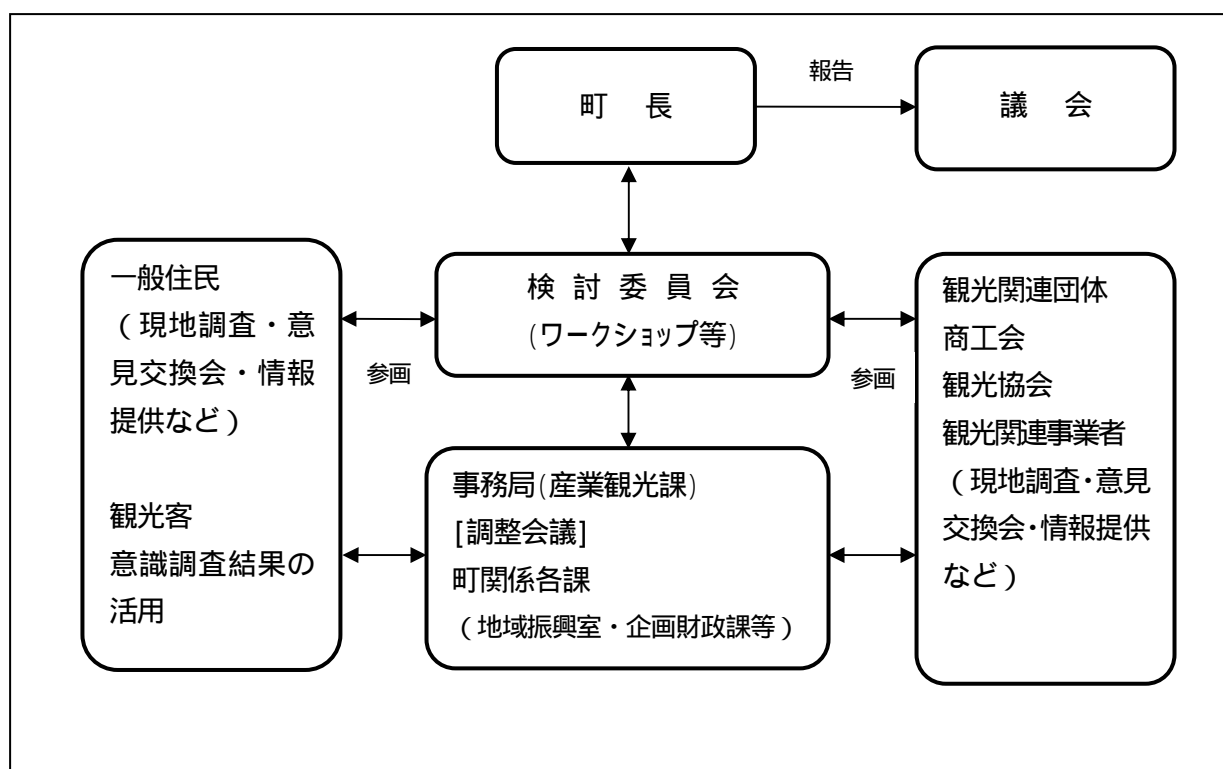
### 各種アンケート調査の実施

本計画の策定のための基礎資料等を得ることを目的に、ときがわまつりに来訪された観光客や町有施設従業者に対するアンケート調査を実施し、現状を分析するとともに、計画の検討資料としました。

### 現地調査、情報収集等

その他、町の観光関連施設等の現地調査をはじめ、各種関連データの収集分析、町ワーキンググループの「ときがわ町として出来ること」をテーマとした提案書などを整理し、具体的な計画内容に反映させました。

【観光振興計画策定 体制図】





---

## 第2章 ときがわ町の現状と課題

---



# 1 ときがわ町の観光の現状

## (1) 町の観光資源

町の観光資源について、建具会館をはじめとした町有施設のほかに、1,300年の歴史を有する慈光寺周辺の歴史公苑や歴史ある神社仏閣が多くあります。また、雀川砂防ダム公園やたまがわ花菖蒲園、トレッキングコース、さらに民間の温泉施設や特産品などが多数あります。

### 1) 町の観光資源、施設

観光資源	内容
農産物直売所	ふれあいの里たまがわ、木のむら物産館、建具会館、大野特産物販売所
体験施設	いこいの里大附(そば道場)、やすらぎの家、星と緑の創造センター、くぬぎむら体験交流館、奥畑ふるさと農園、
花・紅葉の見どころ	たまがわ花菖蒲園(菖蒲)、雀川砂防ダム公園(アジサイ)、桃木(花桃)、慈光山歴史公苑(シャガ、桜)、堂平山(ツツジ、紅葉)、櫛平(シユウカイドウ)、三波溪谷(紅葉)
巨木・天然記念物等	七重のヤマザクラ、石小土のヤマザクラ、向尾根のヤマザクラ、越沢稲荷の大スギ、スギとシラカシ(櫛平)、砥石のヒノキ、シロヤシオ、カツラ、姥櫿、スダジイ(西平)、日枝神社のケヤキ、龍福寺のリンボク、日影神社のスギ、春日神社の杜、大カヤ、大イチョウ、児持杉、慈光寺の多羅葉樹
史跡・名勝	小倉城跡、大築城跡、玉川橋、玉川陣屋跡、亀の原窯跡、七重砂防堰堤、男鹿岩、女鹿岩
キャンプ場	木のむらキャンプ場
温泉	都幾川四季彩館、湯郷玉川、旅館とき川、温泉スタンド
寺院・神社	慈光寺、靈山院、正法寺、萩日吉神社、春日神社など
特産品	原木きのこ、のらぼう菜、埼玉青なす、山菜、木工品など



## 2) 町の観光イベント

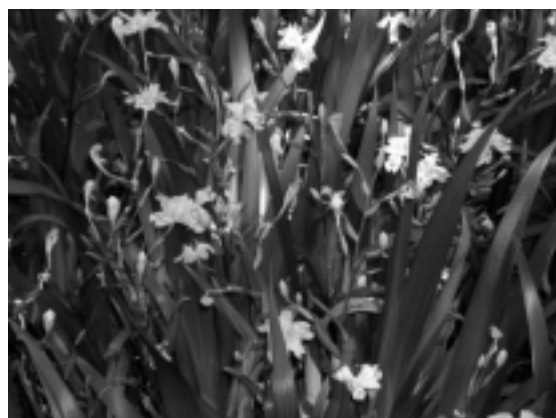
月	内 容
1月	萩日吉神社例大祭・小神楽(萩日吉神社・大字西平地区) 萩日吉神社のやぶさめ(3年に一度)(萩日吉神社・大字西平地区)
2月	春日神社春季例祭(だんご投げ)(春日神社・大字玉川地区)
3月	花めぐり ・サクラ(慈光山歴史公苑・大字西平地区)
4月	花めぐり ・花桃(八幡神社周辺・大字桃木地区) 【関連行事】花桃まつり(八幡神社周辺・大字桃木地区) ・サクラ、シャガ(慈光山歴史公苑・大字西平地区) ・ミツバツツジ(正法寺など町内各所・大字西平地区など) 【関連行事】つつじ祭り(正法寺・大字西平地区) ・ヤマツツジ(トレッキングコースなど町内各所・大字西平地区など) 木のむらキャンプ場開村(木のむらキャンプ場・大字大野地区) 慈光寺観音堂御開帳(慈光寺観音堂・大字西平地区) 萩日吉神社太々神楽(萩日吉神社・大字西平地区) 大野神社送神祭(大野神社・大字大野地区) 慈光山歴史公苑 サクラとシャガのライトアップ(慈光山歴史公苑・大字西平地区)
5月	花めぐり ・牡丹(霊山院・大字西平地区) 【関連行事】ぼたん祭り(霊山院・大字西平地区) さと山まつり(やすらぎの家前・大字西平地区) 木のむらファミリー釣り交流会(木のむらキャンプ場・大字大野地区)
6月	花めぐり ・花菖蒲(ときがわ町役場本庁舎西側・大字玉川地区) 【関連行事】たまがわ花菖蒲まつり(ときがわ町役場本庁舎西側・大字玉川地区) ・アジサイ(雀川砂防ダム公園・大字日影地区)
7月	西平屋台囃子(宿交差点周辺・大字西平地区)
8月	ときがわ納涼まつり(ときがわ町役場本庁舎前駐車場・大字玉川地区) 大野神社ささら獅子舞(大野神社・大字大野地区)
9月	花めぐり ・シュウカイドウ(くぬぎむら体験交流館周辺・大字梶平地区)
10月	ときがわもみじ太鼓まつり(雀川砂防ダム公園・大字日影地区) 梶平 稲荷神社ささら獅子舞(キツネつり)(稲荷神社・大字梶平地区) ささら獅子舞(日枝神社・大字大附地区、雷電神社・大字瀬戸地区、上サ地区・大字西平地区)
11月	ときがわまつり(体育センター及び文化センター周辺・町内)
その他、	町内のイベント 観光協会の定期イベント 各地域の花まつり・夏まつり 各寺社の催事 各町有施設のイベント 星空観望会 2回/月(堂平天文台 星と緑の創造センター・大字大野地区)など

### 3) 町の花カレンダー

花種類	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
花桃		▶					
サクラ		▶					
ツツジ		▶					
シャガ		▶					
花菖蒲			▶				
アジサイ				▶			
シュウカイドウ							▶



たまがわ花菖蒲園



慈光寺歴史公苑のシャガ



櫛平のシュウカイドウ

## (2) ときがわ町の観光紹介記事等

本町の観光施設やハイキングコースなどについて、観光ガイドブック等で紹介されています。特に、都市近郊の日帰りハイキングコースやスポーツサイクリングコースとして手軽な楽しみ方が紹介されています。

### 1) まっふる埼玉(2009 最新版 昭文社)

施設	記事
木のむらキャンプ場	調理棟、シャワー棟を完備しており、川遊びやバーベキューが楽しめる。魚釣りをする際は遊魚券を購入しよう。
ふれあいの里たまがわ	新鮮な野菜や果物、花、米、豆腐、うどんなどが並ぶ直売所。時期には特産の「のらぼう菜」や「青なす」も販売する。店内はバリアフリー設計で広々としており、ゆっくり買い物が楽しめる。

### 2) 山と高原地図 22 2009 年版「奥武蔵・秩父」昭文社

主な地点	ルート
堂平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堂平山～トレッキングルート～慈光寺～西平</li> <li>・堂平山～七重峠から白石車庫</li> <li>・堂平山～白石峠～大野峠～刈場坂峠</li> </ul>
梶平	<ul style="list-style-type: none"> <li>・梶平～日向根～刈場坂峠</li> </ul>
大附	<ul style="list-style-type: none"> <li>・桃木～弓立山～大附いこいの里</li> </ul>
雷電山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雀川砂防公園～行風山</li> <li>・雀川砂防公園～雷電山～雷電山登山口</li> </ul>

### 3) 関東周辺「スポーツサイクリング・コースガイド」山と溪谷社

コースタイトル	コース
奥武蔵グリーンラインで10の峠をパスハンティング	小川町駅～落合橋交差点～定峰峠～白石峠～刈場坂峠～飯盛峠～顔振峠～東吾野駅
奥武蔵のメジャー峠、白石峠を体験サイクリング	埼玉県平和資料館～鳩山駐在所前交差点～都幾川中学校前～西平交差点～白石峠登り口～白石峠～高篠峠～白石峠登り口～西平交差点～越生梅林北～鳩山駐在所前交差点～埼玉県平和資料館



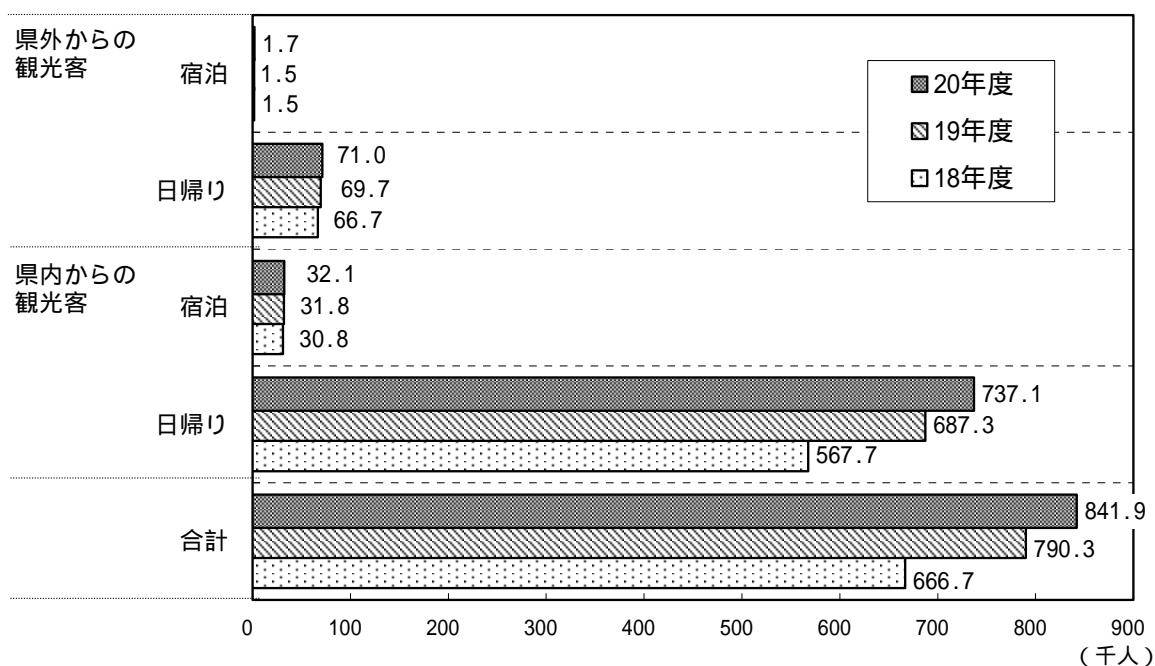
### (3) 入込観光客数の動向

#### 1) 年次別総入込観光客の推移(万人)

本町の総入込観光客数の推移を見ると、20年度は合計84万2千人で増加傾向にあります。特に、その中でも県内からの日帰り客の増加が目立ちます。

さらに、消費金額も20年度に9億8,200万円ほどであり、近年は増加傾向にあります。

総入込観光客数(千人)



消費金額(千円)

年次	18年度	19年度	20年度
消費金額(千円)	676,950.3	914,319.2	982,089.1

イベント別集客数(人)

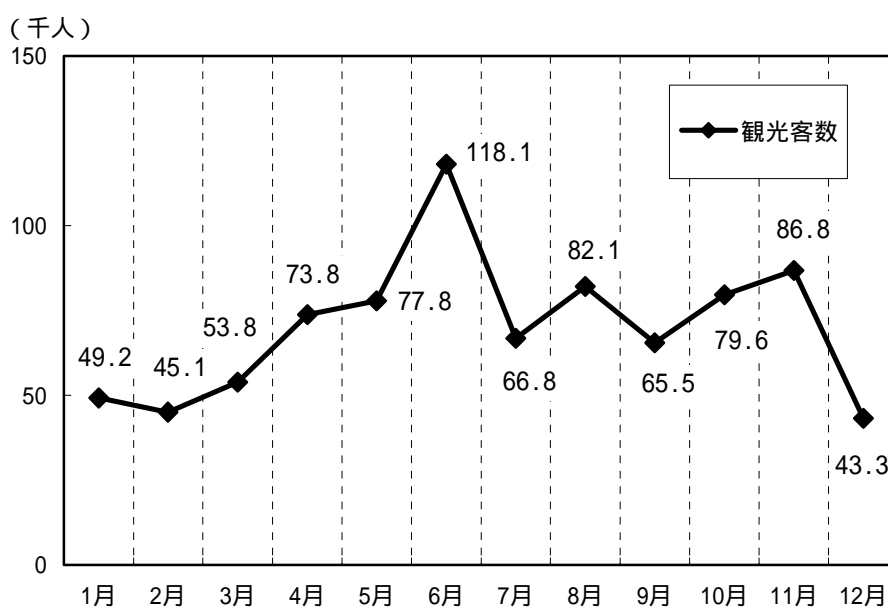
イベント名	18年度	19年度	20年度	21年度
ときがわまつり	9,000	13,000	19,000	19,000
さと山まつり	3,000	3,000	1,800	2,000
つり交流会	200	233	180	250
もみじ太鼓まつり	-	900	1,100	2,000
シュウカイドウ	-	-	5,200	7,700
花菖蒲	28,700	34,200	45,000	28,000

## 2) 入込観光客の特長(平成20年)

入込観光客の特長をみると、6月の花菖蒲の時期が最も多く、冬の時期がやや少なくなります。しかし、比較的年間を通じて観光客が訪れていることがわかります。

また、種類別にみると県内からの日帰り客が大半を占め、産業観光客が最も多い状況です。

月別入込観光客数(平成20年)



種類別観光客数(目的、居住地、日帰り・宿泊別)(平成20年)

(千人)

種類別	区分				
	県内・県外別				計
	県内から		県外から		
	日帰り	宿泊	日帰り	宿泊	
ハイキング及び登山客	29.3	31.9	7.4	1.4	70.0
花見客及び紅葉狩り客	16.8	0.0	4.5	0.0	21.3
釣り客	4.2	0.0	0.2	0.2	4.6
寺社参詣及び文化財 天然記念物見学者	22.1	0.2	10.8	0.1	33.2
各種行事まつり見学者	89.7	0.0	5.1	0.0	94.8
スポーツ客	42.1	0.0	15.0	0.0	57.1
産業観光客	320.7	0.0	16.6	0.0	337.3
その他	212.2	0.0	11.4	0.0	223.6
合計	737.1	32.1	71.0	1.7	841.9

### 3) 町有施設売上・利用者の状況

本町の観光振興に関わる町有施設については、以下の10施設があげられます。特に、「木のむら物産館」は20年度の売上金額が約2億6,500万円で、来客数も約20万人あり、賑わいのある施設となっています。

次いで、18年度にオープンした農産物直売所「ふれあいの里たまがわ」も20年度の売上金額が約1億5,000万円で来客数も約14万人と多くなっています。

年度別売上金額の推移

(千円)

	17年度	18年度	19年度	20年度
ふれあいの里たまがわ	-	58,233	121,330	147,936
都幾川四季彩館	-	30,369	46,104	50,084
木のむら物産館	206,478	226,057	239,837	264,882
いこいの里大附	22,265	21,118	20,072	17,442
やすらぎの家	19,583	23,567	29,781	30,994
建具会館	32,225	29,282	27,422	26,026
大野特産物販売所	13,144	11,961	11,300	10,881
木のむらキャンプ場	11,925	10,830	12,987	13,618
星と緑の創造センター	5,786	6,561	9,560	5,800
くぬぎむら体験交流館	-	-	767	4,570
合計	311,406	417,978	519,160	572,233

年度別来客数の推移

(人)

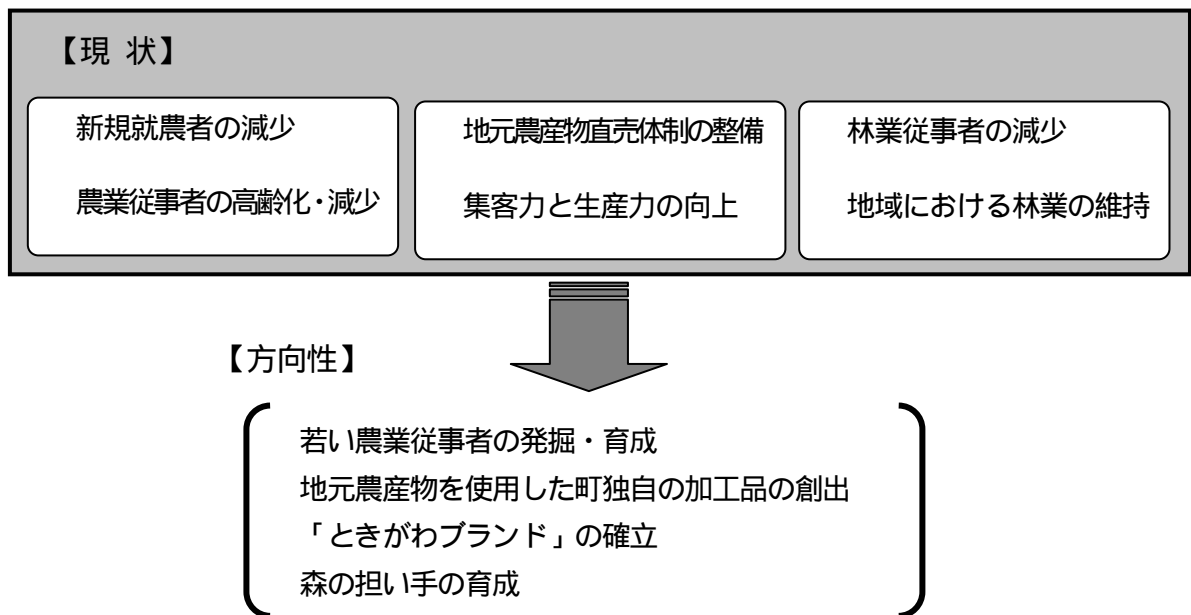
	17年度	18年度	19年度	20年度
ふれあいの里たまがわ	-	54,316	115,994	137,263
都幾川四季彩館	-	29,201	49,196	51,721
木のむら物産館	169,073	180,035	186,146	197,067
いこいの里大附	16,318	16,189	16,123	13,568
やすらぎの家	25,651	22,104	25,711	27,934
建具会館	43,742	25,177	24,701	23,969
大野特産物販売所	16,068	13,932	13,058	13,692
木のむらキャンプ場	18,137	16,728	19,359	19,658
星と緑の創造センター	1,016	1,355	1,715	1,786
くぬぎむら体験交流館	-	-	839	6,586
合計	290,005	359,037	452,842	493,244

#### (4) 町の産業動向と観光振興

町の農林業や商工業の振興と観光振興の関連性について、第一次総合振興計画から整理します。特産品の開発やブランド化による観光振興の活性化を図ることにより、農林業や商工業の維持や、観光施設等における雇用の場の確保が展望されています。

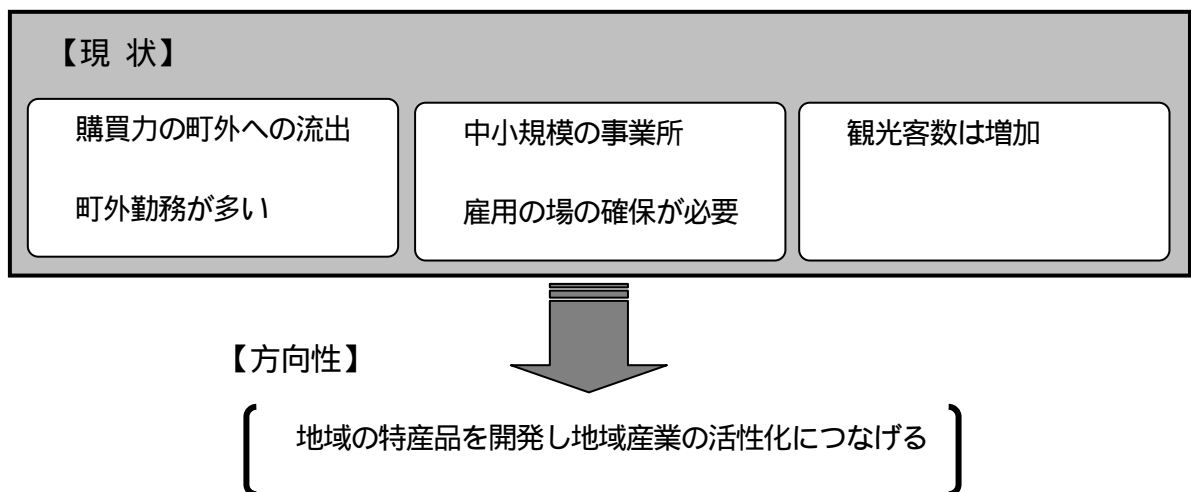
##### 1) 農林業について

農林業従事者の高齢化等の現状を踏まえ、若い農林業従事者の発掘・育成や地元農産物を活用した「ときがわブランド」の確立などが求められます。



##### 2) 商工業について

購買力が町外に流出している現状において、地域の特産品を開発するなど、観光振興を通じて元気で活力ある取り組みが求められます。



### 3) 町有施設への出品状況等

町有施設には農産物をはじめとして、加工食品、木工製品など多様な商品が出品されています。出品者数は合計 533 人に上ります。また、従業者数は 81 人となっており、観光事業が町の産業の中で重要な位置を占めていることがわかります。

町有施設の従業者数並びに出品状況等

(単位：人)

施設名	店舗内 従業者数 (1)	販売品等の参加会員数					備考	
		合計	部会、業種別内訳(2)					
ふれあいの里 たまがわ	11	160	木工	食品	農産物	手工芸	その他	
			6	36	97	11	10	
都幾川四季彩館	15	18		食品		工芸品	マッサージ	
				13		3	2	
木のむら物産館	10	144					内訳なし 出品物が重複するため 分類しない	
いこいの里大附	10	19	木工	食品	農産物	手工芸		
			1	5	9	4		
やすらぎの家	14	8	ギャラリー	まんじゅう 部会				
			(月替わり)	8				
建具会館	5	91	木工部会		農産部会	工芸部会		農産部会・木工を含む
			14		44	33		
大野特産物 販売所	2	40					内訳なし 出品物が重複するため 分類しない	
木のむら キャンプ場	9	3	薪	炭				4~10月
			1	2				
星と緑の創造 センター	5	1		コーヒー				土日のみ
				1				
くぬぎむら 体験交流館	(3)	49	木工部	料理部	農業部	手工芸部		体験 食事提供は各部で 対応。従業者は会長副会 長をカウント
			6	8	21	14		
合計	81	533	木工	料理・加工	農業・農産	手工芸部	その他	
			27	71	171	65	199	

平成 21 年 12 月 14 日現在 (産業観光課調べ)

- 1 店舗内従業者数は、正規、臨時、パート等のすべてを含む。
- 2 部会、業種別内訳は、業種や部会別の人数内訳があれば上段に業種・部会名を、下段に人数を記入。内訳がない場合は、備考欄。



## (5) 来訪者及び町民、施設従業者の意見

ときがわ町や祭りなどに訪れた来訪者の実態を把握しました。また、町民の観光に対する意識を把握するとともに、町有施設従業者に対しても実態を把握しました。

### 1) 来訪者からの意見

以下は、平成21年3月26日まとめ、ときがわ町と埼玉大学が実施した「ときがわ町路線バスの改善に向けてのアンケート調査（観光客用）」報告書の結果を資料用として改編したものです。

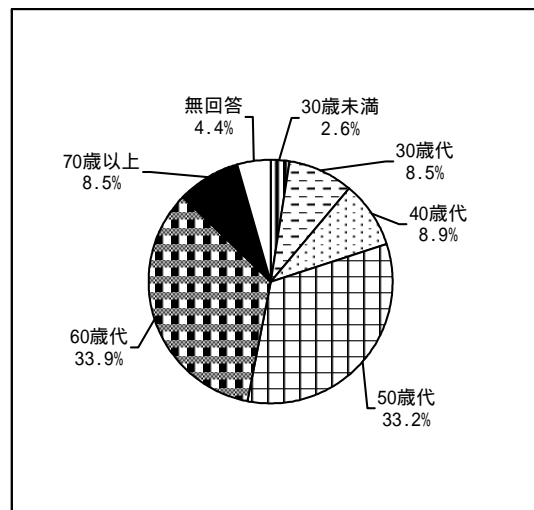
- ・配布...平成20年11月中旬～28日 直接配布
- ・回収...平成20年11月28日までに、同封されている返信用封筒により郵送

#### 配布・回収状況

配布場所	配布数	回収数	回収率
ときがわ町内観光地	710	260	36.6%
ときがわ町バス車内	133	11	8.3%

#### 年齢

観光客の年齢層をみると「50歳代」が33.2%、「60歳代」が33.9%で、合わせると50～60歳代が約7割を占めます。

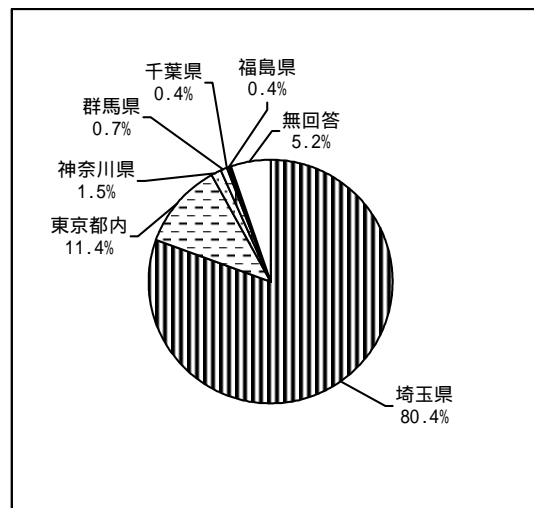


#### 居住地

観光客の居住地をみると「埼玉県」が80.4%で大半を占めています。

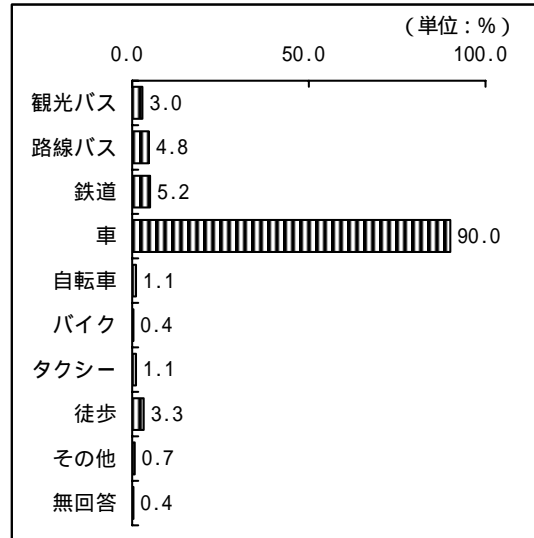
#### 市町村別居住地（上位5位）

さいたま市  
川越市  
所沢市  
狭山市  
坂戸市、鶴ヶ島市



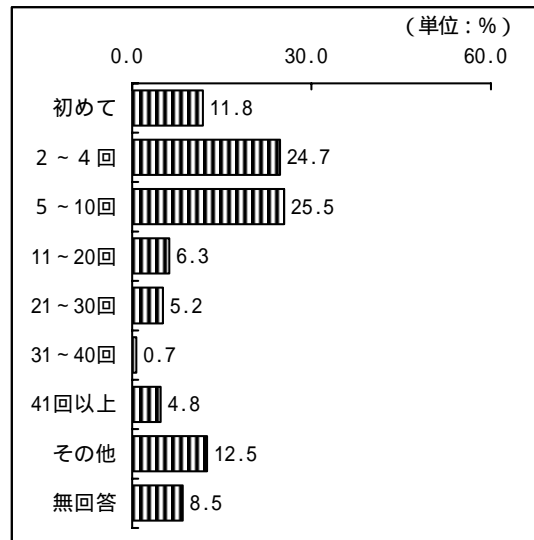
### 交通手段（複数回答）

観光客の交通手段をみると「車」が90.0%で大半を占めます。



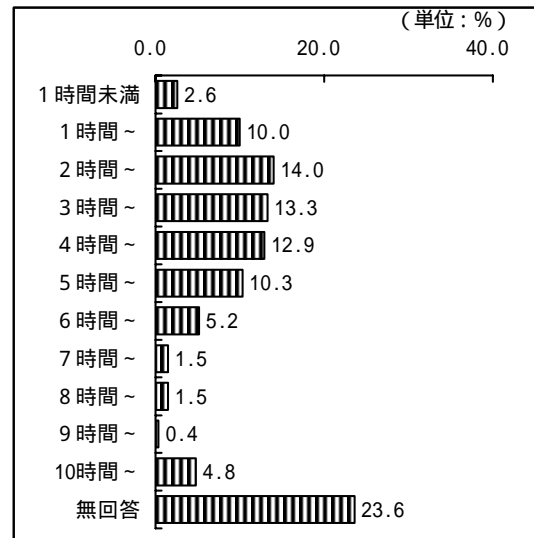
### ときがわ町の来訪回数

観光客のときがわ町への来訪回数をたずねたところ「2～4回」が24.7%、「5～10回」が25.5%で高く、「初めて」の11.8%を加えると“10回以内”が6割を占めています。



### ときがわ町の滞在時間

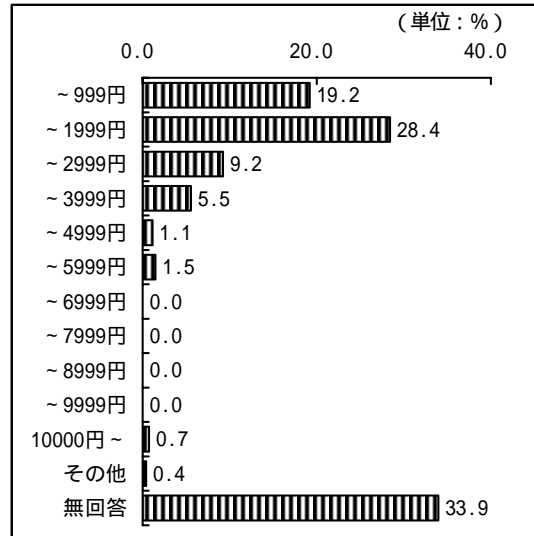
ときがわ町の滞在時間をみると「2時間～」が14.0%、「3時間～」13.3%、「4時間～」が12.9%で高く、概ね“2時間～5時間程度”の滞在時間となっています。



## 消費金額

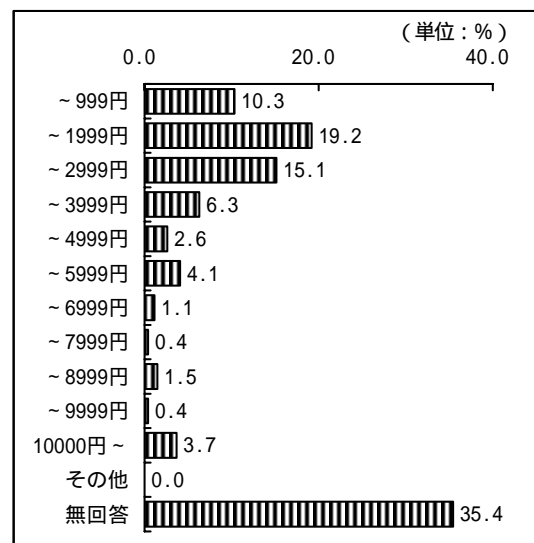
### (食事・喫茶代)

観光客の消費金額をみると、食事・喫茶代については「～1999円」が28.4%で高く、“2千円以内”が多くを占めています。



### (お土産・買物代)

お土産・買物代についても「～1999円」が19.2%で高い結果ですが、「～2999円」も15.1%あり、食事・喫茶代と比べるとやや高くなっています。

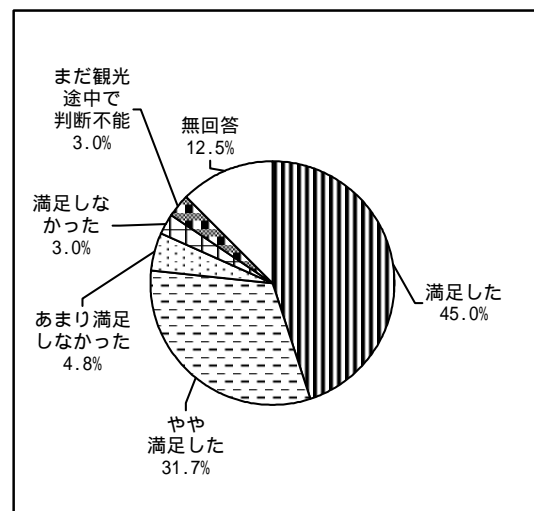


## 観光客の満足度

観光客の満足度をみると「満足した」が45.0%で最も高く、「やや満足した」が31.7%で、合わせると約8割の方は“満足”と回答しています。

### 観光資源の魅力(上位5位)

- 素晴らしい景観
- 直売所の買い物
- おいしい特産品
- 四季折々の花木
- ハイキング、巨木めぐり



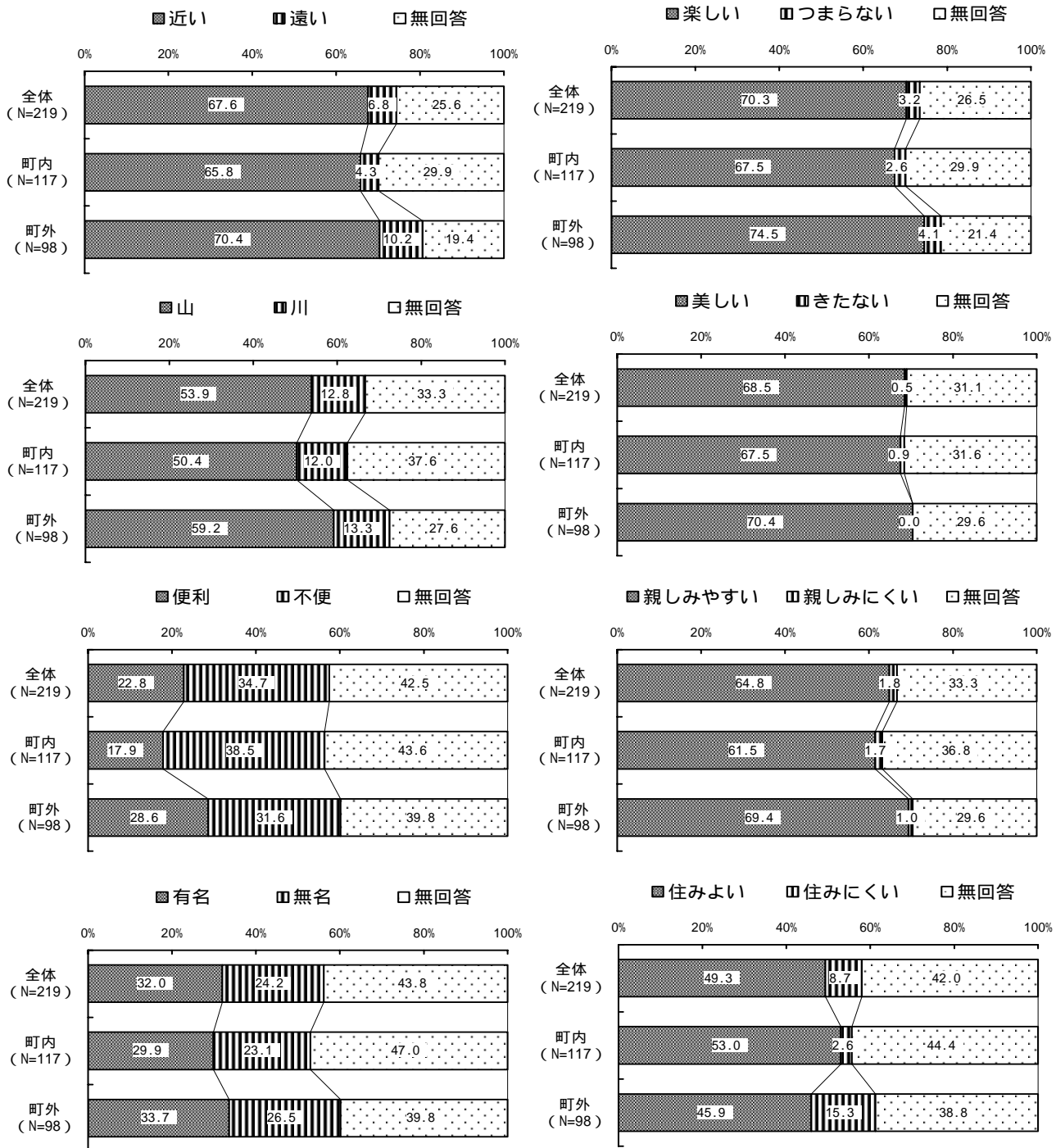
## 2) ときがわまつり来訪者の意見

以下は、平成 21 年に開催した「第 4 回 木のくに ときがわまつり」に合わせて、来訪者にアンケートを実施したもの。

### ときがわ町のイメージ

ときがわ町のイメージについて、どちらか近いと思うか選んでいただいたところ、「近く」「楽しく」「美しく」「親しみやすい」といったイメージが高くなっています。

一方では「不便」で「無名」といった回答も高い結果ですが、逆に観光の穴場としてメリットにとらえることも考えられます。



### 3) 町有施設従業者の意見

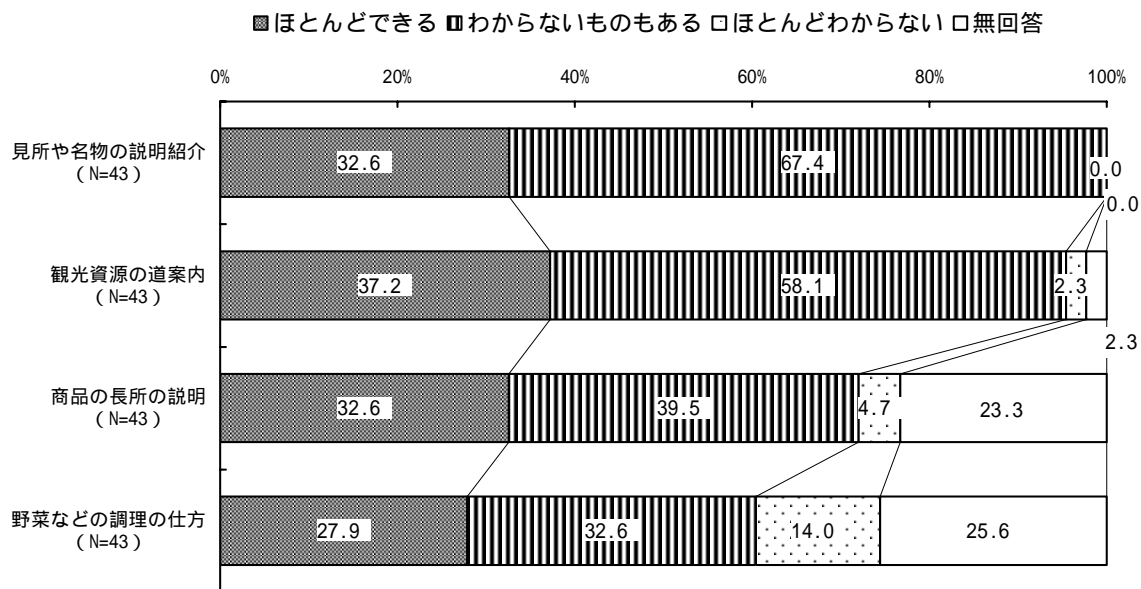
以下は、平成 21 年に開催した「町有施設従業者の接遇研修」に合わせて、アンケートを実施したものの。

#### お客さんからの問合せや質問への対応

お客さんからの問合せや質問については、「ほとんどできる」が 3～4 割を占めますが、“見所や名物の説明紹介”と“観光資源の道案内”については、「わからないものもある」が 6～7 割で多くを占めます。

また、“商品の長所の説明”や“野菜などの調理の仕方”は「ほとんどわからない」と回答した従業者も 1 割程度いました。

(回答者総数：43 人)

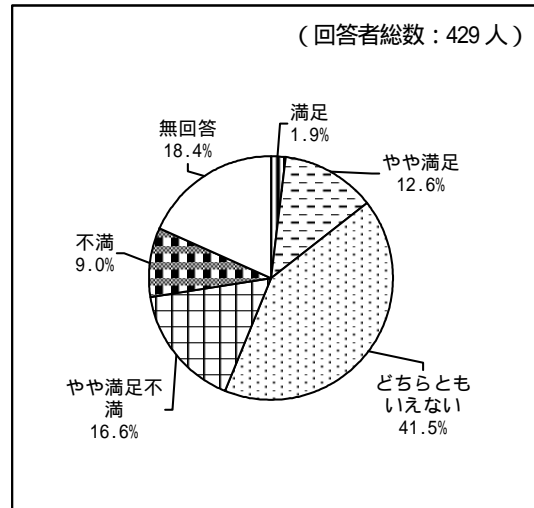


#### 4) 住民の観光振興に対する意見

以下は、平成 18 年に実施した「ときがわ町総合振興計画策定のための住民意識調査」報告書の結果を資料用として改編したものです。

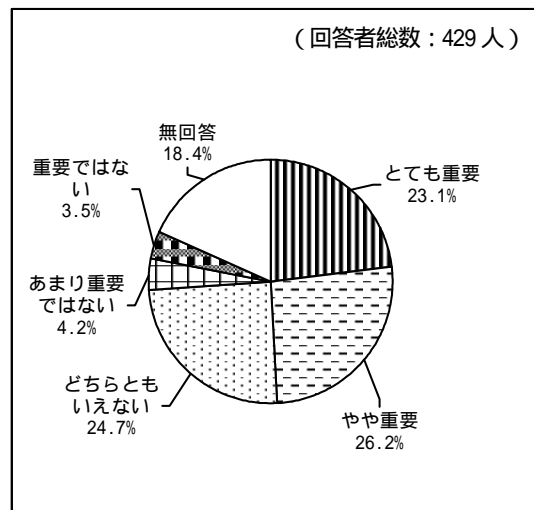
##### 観光振興に対する満足度

住民の観光振興に対する満足度は「どちらともいえない」が 41.5% で最も高くなっています。



##### 観光振興に対する重要度

住民の観光振興に対する重要度は「とても重要」が 23.1%、「やや重要」が 26.2% で、重要と考えている方が半数を占めており、観光振興に対する期待が高いことがうかがえます。



## 2 課題と方向性

### (1) 計画検討委員会の意見

本計画の検討委員会においては、全体会のほかにワークショップを開催し、ときがわ町の観光の課題や方向性について活発な議論が行われました。

なお、検討委員会における主な議論の要点は以下のとおりです。

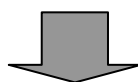
#### 【検討委員会の主な意見整理】

議論の特徴として、「ときがわ観光のこだわり」、「観光振興計画の理念・あり方」、「ときがわ町の特徴や課題」について、活発な意見交換がなされました。

特に、一般的にいわれるような観光振興の目的、例えば、入込観光客を増やす、地元消費を増やす、地域を経済的に活性化するなどにとらわれる必要はないのではないかと。

それよりも、観光を通じて“多様な人的交流”を図ることが大切である。地域住民の生きがいの構築や精神的な豊かさの向上、いい意味での日常生活への刺激の享受などが重視される。

ときがわの持つ「森林・山」「自然」「あるがまま」ということを大切に、さらには、ときがわ町における『観光と森林・林業の活性化』に結びつけていけると最も良い。



このようなことから方向性は

ときがわ町の観光振興のあり方は、観光客の集客増をねらう大規模観光施設を整備するよりも、ときがわ町の歴史を生かし、素朴で、素人による“手づくり感”のある『一人ひとりの観光客が満足できる』観光振興に力点を置く。そして、町に何度も足を運んでくれるような、ときがわのファンを増やしていく努力、取り組みが望ましい。

( ) 検討委員会における具体的な意見や提案内容については、本計画の資料編に詳しく記載しています。

ときがわ町で考える「あるがまま」とは...

「あるがまま」とは、町の森林や農地、街並みなどに何も手を加えないということではありません。森林や農地、美しい景観や生態系に適切な「人の手」を加えながら、華美にならず、気取らず、わざとらしくない、観光まちづくりを進めていくものです。

## (2) ときがわ町の観光をめぐる課題と方向性

観光振興に関する実績データや各種アンケートにおける実情、検討委員会でのワークショップを開催する中で意見等を踏まえ、具体的な課題等を整理すると課題と方向性は、以下のとおりになります。

### ときがわ町観光の『強み』

自然と歴史が豊富である。  
多様な体験と非日常が体感できる  
都市近郊であり、「気軽」に訪れられる 等

### ときがわ町観光の『弱み』

公共交通機関がやや不便である  
多人数の来訪者に対応できない  
町全体として観光の意識が薄い 等

### 検討委員会（ワークショップ）での意見

《車での来訪者等を想定して》

地元での案内人を育成する。  
各町有施設を「道の駅」のような拠点とする。（パークアンドライド方式など）  
住民参加によりおすすめスポットを募集

《公共交通機関での来訪者等を想定して》

新しいデマンドバス交通システムの工夫  
林業振興との連携した観光振興を図る  
車道と歩道を分けた観光コース  
ときがわの味覚の開発

観光を取り巻く社会の動向  
上位計画、関連計画等

町有施設の利用実態等  
各種のアンケート調査結果

## 【ときがわ町観光振興の方向性について】

ときがわの観光振興については、ときがわ町らしさを生かして何十年も先を見据えた長期的な視点に立って、取り組みを進めていきます。

その一方で、その実現のために短期的にできることはすぐにでも取り組んでいく必要があります。

来訪者に対して「手作り(おもてなし)感」のある「個別対応型」観光に力点を置く。  
ときがわの「自然豊かな環境」や「健康的なイメージ」を生かした観光を振興する。  
住民が共有できる「理念」をかけた、人材の育成と多様な人的な交流を図る。





---

## 第3章 計画の目指す方向

---



# 1 計画の理念と基本方向

## (1) 基本理念

人と自然の優しいお出迎え ときがわ

～ 山時間、里空間、たくさん仲間が待ってるよ！！ ～

上位計画である総合振興計画の将来像「人と自然の優しさにふれるまち ときがわ」の実現を図る上でも、“人と自然の優しさ”という、ときがわを象徴する理念を掲げます。また、ときがわの森林や里山へのこだわり、人とのふれあいの暖かさを町民ぐるみで観光振興に生かしていきます。



## (2) 基本方向

ときがわ町の観光振興を図る上で、『地域の元気やいきいきとした生活』が最大の観光資源となることを強く認識することとします。観光客が町民の元気に暮らす様にふれ、町民から元気をもらい、楽しい気持ちになることが大切です。

ときがわの「もの」や「こと」などを、地域住民自らが紹介し案内することで、人的なつながりを最大限に生かした観光振興を図っていきます。

そのためには、直接、観光に関わる人々だけでなく、地域のあらゆる人が関われる仕組みづくりが大切です。

また、ときがわの持つメリットである、思い立ったらその日のうちに訪れられる近郊性と、ゆったりとした時間を気軽に体感できる、あるがままを生かした手作り(おもてなし)感のある取り組みを「仲間づくり」、「空間づくり」、「時間づくり」といった視点で進めていくこととします。

### ときがわ観光ひとづくり ... 担い手の育成など

ときがわ観光が目指す町民ぐるみの観光振興に向けて、子どもからお年寄りまですべての町民が町の歴史や文化をよく理解できる機会を設けます。また、案内人などの育成をはじめとし、若者の雇用の場確保を意識した農業や林業、木工業などの振興と担い手育成、町内外企業や人材との連携強化などを進めるものです。

ときがわ町の観光振興を進めるために、多くの『**仲間**』をつくろうとするものです。

### ときがわ観光ものづくり ... 施設整備など

来訪者により多くの満足感を味わっていただくために、必要な施設の整備・充実を進めるものです。特に、森林や里山を活かしたハイキングコース等については、達成感や安心感を重視して整備を進めます。また、公共交通体系の充実に努め、自家用車を利用しない観光客の増加を図るものです。

ときがわ町の観光振興を進めるために、快適で楽しい『**空間(場所)**』をつくろうとするものです。

### ときがわ観光ことづくり ... メニュー、しくみづくりなど

来訪者がときがわ町でゆったりとした時間を過ごし、また、ときがわに来たいと思われるように、情報提供体制の整備やイベントの開催、新たな体験メニューや食、お土産の開発を進めるものです。また、「ときがわならではの」の優待制度など、リピーターやときがわ愛好家を増やすしくみづくりを進めるものです。

ときがわ町の観光振興を進めるために、訪れた観光客の皆さんが有意義に過ごせる『**時間**』をつくろうとするものです。

## 2 重点事業

ときがわ観光振興計画書の基本方向を踏まえ、重点事業としては以下の事業を掲げて取り組みます。

### (1) ときがわ観光ひとづくり

#### 公認案内人の育成・確保・活用



住民による地域情報や案内等の説明力の重要性が指摘されています。ときがわの魅力を楽しく分かりやすく伝えられる、ときがわの「公認案内人」の育成は最重要事業と考えます。



### (2) ときがわ観光ものづくり

#### 案内標識の整備

ハイキングコース等については、自動車では気がつかない細かな案内標識が重要です。特に、ときがわ町ではこのような案内標識が不十分という声も聞かれました。町の特徴である森林や里山を活用した観光振興を図る上で、案内標識の整備は重要と考えます。



### (3) ときがわ観光ことづくり

#### ときがわの体験メニューの開発

来訪者に対する手作りのおもてなしを重視するためには、多様なニーズに対応できる体験メニューが必要です。また、体験活動は地域での滞在期間が長くなり、地域への経済波及効果が期待されます。農業や林業、里山、川、歴史、神社仏閣などを活用した体験メニューを開発し、ときがわ観光の個性を創造するとともに多様性を確保していきます。





---

---

## 第4章 計画の内容

---

---





## 基本方向 1 ときがわ観光ひとづくり(仲間づくり)

### 【基本施策 1 - 1】町民意識の高揚

施策名	目的		
町民意識の啓発事業	町民が観光による地域振興に対して、理解と関心を深め、観光客を快くお迎えする気風を養うものです。		
	個別事業	事業内容	推進団体
	広報活動	広報紙や町ホームページを活用し観光振興計画の周知徹底や観光情報の提供などを進めます。	町
	ふるさと講座等の開催	子どもからお年寄りまで、すべての階層ごとに観光講座等を開催し、町民の観光に対する理解促進を図ります。	町民・町

施策名	目的		
町民参画機会の提供	町民が観光による地域振興に対して理解と関心を深めるため、観光振興事業やイベントに参加する機会を提供するものです。		
	個別事業	事業内容	推進団体
	私のおすすめスポット提案事業	広く町民から「私のおすすめスポット」を募集するとともに、町民によるワークショップを開催し、新たな観光資源の発掘・整備を図ります。また、優秀な提案には「大賞」を与えます。	町民・町
	観光イベントへの参画促進	町の観光イベントなどには、ボランティアとしての町民の参画を積極的に募ります。	町民・町

#### 推進団体の表記について

推進団体は事業の実行に際し、参画が期待される団体や組織、個人などを記載しています。本計画策定時に想定される団体や組織を可能な限り具体的に記載しています。そのため、実際に事業が実施された場合には、この内容と異なる団体等の参画を期待する場合があります。

## 【基本施策 1 - 2】公認案内人の育成・確保・活用

施策名	目的	
案内人養成講座の開催	町観光の魅力アップのために必要な案内人の養成と確保を図るものです。	
個別事業	事業内容	推進団体
講座カリキュラムの開発( )	公認案内人に必要な知識や見識、公認案内人の認定方法など、公認案内人の育成・確保に係る要項(講座カリキュラム)を整備します。	観光協会・町
講座の開催	毎年、定期的に講座を開催し、新しい案内人の養成、案内人資質の維持・向上を進めます。	観光協会・町

公認案内人養成講座は「初級コース」「中級コース」「上級コース」などにわけ、それぞれのコース修了者を「ジュニアガイド」「シニアガイド」「チーフガイド」などに認定し、名札・名刺などを交付します。  
公認案内人は、観光協会が指名するものとします。

施策名	目的	
案内人の活用	養成した案内人が活躍できるように案内業務のコーディネートを行う組織や案内コースの開発を行うものです。	
個別事業	事業内容	推進団体
組織の確立	観光協会に案内人組織の事務局を置き、観光客や観光事業所等との連絡調整を図ります。	観光協会
案内コースの開発	案内人付きで魅力がアップする、観光コースの開発を図ります。	観光協会・町

### 【基本施策 1 - 3】後継者等の育成

施策名	目的	
観光関連施設従業者の後継者育成	町有の観光施設などの従業者の世代交代に対応するものです。	
個別事業	事業内容	推進団体
観光施設従業者育成事業	地域組織（施設管理者等）との連携を進め、人材の育成・確保に努めます。また、従業者の就労環境の向上や町観光に関する知識・見識の向上に努め、魅力ある職場づくりを進めます。	町民・施設管理者・町

施策名	目的	
農業・林業・木工業後継者の育成	本格的な体験観光に対応できる後継者の育成を図るものです。	
個別事業	事業内容	推進団体
専門インストラクターの育成	町の「農業・林業・木工業等」の振興策（ ）を推進するとともに、本格的な体験型観光に対応できる「専門インストラクター」を育成します。	町民(農家) 森林組合・協同組合・町

町の農業・林業・木工業などの振興策には「地産地消推進事業」「新規就農者育成事業」「緑の雇用創出事業」「特産品づくり推進事業」などがあります。

### 【基本施策 1 - 4】町の宣伝マンの育成

施策名	目的	
公認ときがわ先達の育成	ときがわ町の良さを広く伝えてくれる町内外の宣伝マンの育成を図るものです。	
個別事業	事業内容	推進団体
公認ときがわ先達の発掘・指名（ ）	町内外の観光事業所や観光関係者で、ときがわ町の良さを十分に理解し、積極的にPR活動を推進できる人材を発掘し、「ときがわ先達」の指名を行います。	観光協会
公認ときがわ先達の活躍の場の提供	「先達専用ホームページ」を開設し、先達による町の観光案内やPRを行うとともに、新たな観光商品の開発などに協力をいただきます。	観光協会

公認ときがわ先達は、観光協会が指名します。「先達」とは、『その方面で立派な仕事をして、後輩を導く人。先輩。先学。』のことです。また、巡礼などで参拝者を案内する役割のことをいいます。ときがわ町の観光振興計画の『指導者』、『案内人』としての意味合いがあります。

### 【基本施策 1 - 5】地元企業等の連携・協力

施策名	目的		
観光事業への参画機会の拡大	地元企業が観光振興に理解を深め、観光事業に積極的に関係できる環境を整備するものです。		
	個別事業	事業内容	推進団体
	観光イベントへの参画	町の観光イベントなどへの地元企業の積極的参画を呼び掛け、企業活動のPRや販路拡大を図ります。	観光協会・商工会・一般事業所・町
	町物販施設への出品促進	町有の物販施設への地元企業の出品を拡充し、企業の販路拡大を図ります。	施設管理者・商工会・一般事業所・町
	特産品づくり推進事業	町の農産物や木材、木工技術を活用し、観光客を対象とした特産品の開発を支援します。	町民(農家)・商工会・一般事業所・観光協会・協同組合・町
	事業所施設等を活用した観光コースの開発	企業のPRと売り上げの拡大をめざし、工場などを観光客に開放し、ものづくりの楽しさや難しさ・工夫などを説明します。	観光協会・商工会・一般事業所

### 【基本施策 1 - 6】観光関係事業所等との連携強化

施策名	目的		
観光事業所等との連携体制の確立	ときがわ町をよく理解する観光事業所等と連携し、町観光事業の振興を図るものです。		
	個別事業	事業内容	推進団体
	協定の締結	町や観光協会と観光事業所等が協定を結び、一体となって観光事業の振興を図ります。	観光協会・一般事業所(観光事業所)・町
	観光商品開発	観光事業所等の経験を活用し、モニターツアーを実施するなど、実践的な観光商品の開発を進めます。	観光協会・一般事業所(観光事業所)・町

## 基本方向 2 ときがわ観光ものづくり(空間づくり)

### 【基本施策 2 - 1】案内標識の整備

施策名	目的		
主要な案内標識の整備	ときがわ町の要所に分かりやすい案内施設の整備を図るものです。		
	個別事業	事業内容	推進団体
	主要案内標識の設置	ときがわ町の観光施設を印象深く案内するとともに、地域全体のイメージアップにつながるようにサイン計画を推進します。	町
	案内デザインの活用	案内標識に示されている各デザインを様々な場面で活用を図ります。	町
	ロゴマーク等の作成・活用	新たに町の観光をイメージさせるロゴマーク等を作成し、町の事業所や団体、観光事業に積極的に活用を図ります。	町民・施設管理者・一般事業所・町
	町ぐるみの案内標識等の作成	色やデザイン・素材等を統一し、町有施設と民間施設の区別なく利用できる案内標識等の整備を進めます。	観光協会・一般事業所・町

施策名	目的		
きめ細かい案内板の設置	ハイキングなどに対応する、きめ細かな案内板の設置を進めるものです。		
	個別事業	事業内容	推進団体
	「ときがわ道しるべ」の整備	ハイキングなどに対応し、きめ細かな内容を記した案内標識「ときがわ道しるべ」の整備を進めます。整備にあたっては「木」を活用したり、「町民手作りの道しるべ」など、ときがわらしい工夫をすることとします。	町民・町
	「ときがわ道しるべ」里親制度	「ときがわ道しるべ」は、設置数が膨大になるとともに、観光客の安全確保には「道しるべ」の定期的な管理が重要になります。町民や観光客が「道しるべ」の里親になり、毎年適切に管理できるしくみづくりを推進します。	町民・町

## 【基本施策 2 - 2】観光案内施設・休憩施設の整備

施策名	目的	
既存施設等の活用	既存公共施設の活用や民間事業所の協力により、観光客への情報提供機能や機会の拡大を図るものです。	
個別事業	事業内容	推進団体
観光案内機能の強化	公共施設や物販施設等の観光案内パンフレットの設置スペースを拡充するとともに、役場職員や町有施設従業員の観光案内能力の向上に努めます。	町
事業所の協力	民間事業所の施設や店舗に、観光案内パンフレットの設置を要請するとともに、従業者等の観光案内能力の向上を促します。	一般事業所・町

施策名	目的	
観光案内所の設置	町の観光案内の拠点となる施設を新たに整備するものです。	
個別事業	事業内容	推進団体
観光案内施設の設置	総合的に町の観光案内を行う拠点として、観光案内所を新たに設置します。	観光協会・町

施策名	目的	
休憩所の整備・確保	観光客が気軽にお弁当を広げたり、一息いれることができる「休憩所」を各地に設けるものです。	
個別事業	事業内容	推進団体
休憩所の設置	各町有施設の周辺等にベンチやテーブルなどを設けます。	町民・町
事業所の協力 「公認お休み処」の設置 ( )	民間の店舗などに、観光客が気軽に休めるスペースやサービスの提供を要請します。すぐれたサービスの店舗は「公認お休み処」として認定します。	観光協会・ 一般事業所・町

公認お休み処は観光協会が指定します。

### 【基本施策 2 - 3】観光資源の開発・整備

施策名	目的	
既存観光資源の充実	すでに紹介されている観光コースや資源について、PRの充実や周辺環境の整備など魅力の向上を図るものです。	
個別事業	事業内容	推進団体
ハイキングコース等の利用促進	「ときがわトレッキングコース」の周知徹底と環境整備を図るとともに、「ときがわウォーキングマップ」の活用やPRの推進を図ります。	観光協会・町
観光資源の磨きあげ	慈光寺や四季の花などの観光資源に、より高い付加価値がつけられるよう他の観光資源との連携や環境整備に努めます。	町民・一般事業所・町

施策名	目的	
歴史や文化を活かした観光コース・資源の開発	ときがわ町の長く豊かな歴史と文化を活かした観光コース・資源を開発するものです。	
個別事業	事業内容	推進団体
神社仏閣の活用	神社仏閣を活用して、ときがわ町の歴史と文化にふれる観光コースを開発します。 【活用が期待できる資源】 慈光寺、霊山院、正法寺、春日神社、龍福寺、萩日吉神社、東光寺、入比礼所めぐりなど。	観光協会・寺社等・町
城跡を活かした観光	城跡などを活用して、ときがわ町の歴史と文化にふれる観光コースを開発します。 【活用が期待できる資源】 小倉城跡、大築城跡、狼煙の再現 など。	観光協会・町

施策名	目的	
森・花・巨木などを活かした観光コース・資源の開発	ときがわの森や花、巨木を活かした観光コース・資源を開発するものです。	
個別事業	事業内容	推進団体
ときがわ100年の森づくり（林業と観光のまちづくり）	ときがわ町の森林の間伐を促進し、間伐材を活用した原木きのこを栽培し、巨木のもとで季節の花が咲き競うような森づくりを進めます。	森林組合・町
彩りの森ネットワーク	町の花のミツバツツジ、町の木ヤマモミジなどを町民の協力のもと、町内各所に植栽をします。	町民・町



( 続き )

花を活かした観光	花桃、山桜、シャガ、花菖蒲、アジサイ、シュウカイドウ、コスモスなどのほか、多様な花を活用した「ときがわ旬の花」の開発に努めます。	町民・観光協会・町
お寺の花木を活かした観光	慈光寺の「シャガ」、正法寺の「つつじ」など、お寺と花が一体となった観光資源の開発に努めます。	寺社等・町
巨木を活かした観光	巨木を巡るアクセス環境の改善などを図り、巨木に気軽に親しめる環境づくりを進めます。また、巨木の適切な管理・保全に努めます。	町民(所有者)・町

施策名	目 的	
川を活かした観光コース・資源の開発	都幾川は町を東西に貫流しています。都幾川や川にちなむ観光コース・資源の開発を行うものです。	
	個別事業	事業内容
	三波溪谷周辺の整備	町内有数の景勝地である三波溪谷周辺の整備を行います。
	花菖蒲園・新玉川橋周辺の整備	花菖蒲園の適正な管理を図るとともに、玉川橋や「ふれあいの里たまがわ」、「川の広場」、「都幾川河川敷」と一体となった整備を検討します。
	砂防施設の活用	ときがわ町は「埼玉県の砂防工事発祥の地」として知られています。雀川砂防ダムや七重砂防堰堤などを活用した「砂防工事学習ツアー」などの開発を進めます。
		推進団体
		町
		町民・NPO・団体・町
		町

施策名	目 的	
環境・省エネルギー活動を活かした観光コース・資源の開発	町の環境保全活動や省エネルギー活動などを活用した観光コース・資源の開発を行うものです。	
	個別事業	事業内容
	環境にやさしいまちづくりのイメージ確立	間伐材を活用した木質バイオマスの普及、木材チップの活用など、町独自の環境保全・省エネルギー施策を推進し、環境にやさしいまちづくりのイメージの確立を図ります。
	上サ・スケート場の活用	上サ・スケート場は関東では珍しい天然リンクとして、毎年テレビ放送されます。地球温暖化防止活動と関連付けてPRに努めます。
	子ども向け環境教育旅行の開発	町独自の環境保全への取り組みを活用し、子ども向けの教育旅行商品の開発を図ります。
		推進団体
		町民・一般事業所・町
		団体・町
		観光協会・町

施策名	目 的		
自転車を活かした観光コース・資源の充実	町内を楽しく巡るための気軽な足として自転車を位置づけ、自転車に適した観光コースの開発などを進めるとともに、町外から数多く訪れているサイクリストを温かく迎えるなど、自転車を活用した観光振興事業を展開するものです。		
	個別事業	事業内容	推進団体
	町民の理解促進	自転車を活用した観光振興に対する町民の理解の促進を図ります。	町民・町
	サイクリストのマナー向上	交通安全やごみの持ち帰りなど、サイクリストのマナーの向上を促します。	団体・町
	自転車による観光の安全確保	安全に快適に自転車で町内を巡ることができるように、自転車専用道路や専用レーンの整備を図ります。	町
	自転車で巡る観光コースの開発	自転車の特徴を活かして、楽しく安全に町を巡ることができるコースの開発を図ります	観光協会・町
	自転車駐輪施設の整備	町有施設などに自転車専用の駐輪施設を整備し、気軽に立ち寄ることができる環境整備を図ります。	一般事業所・町
	貸自転車の整備	各観光拠点などにおいて、気軽に貸出しできる貸自転車の整備を図ります。	観光協会・施設管理者・一般事業所・町
	自転車競技大会の開催	ときがわ町がサイクリストにとって憧れの地となるように、町内で自転車競技大会を開催します。	町

#### 【基本施策 2 - 4】町有施設の充実

施策名	目 的		
観光施設の充実	時代の変化に対応した町有の観光施設の整備や運営体制の充実を図るものです。		
	個別事業	事業内容	推進団体
	施設の整備・リニューアル	駐車場や案内標識、アクセス道路の整備など、施設ごとに必要な設備や備品、スペースの拡充を図ります。	施設管理者・町
	来訪者のニーズにあった施設運営	町と施設管理者、地元出品者、事業所などが連携を図り、来訪者のニーズにあった施設運営の充実を図ります。	町民・施設管理者・一般事業所・町
	町有施設間の連携強化	施設従業者の相互交流や情報交換を活発化し、町有施設同士の相乗効果の発揮を促します。	施設管理者・町

## 【基本施策 2 - 5】交通システムの整備

施策名	目的	
町外からの交通アクセスの改善	周辺の鉄道駅などから、町の交通拠点（第二庁舎）までの交通条件の充実を図るものです。	
個別事業	事業内容	推進団体
バス路線の充実	小川町駅、武蔵嵐山駅、越生駅などから、容易にアクセスできる交通環境づくりを図ります。	交通事業所・町
交通拠点の形成	第二庁舎を町の交通拠点として位置づけ、町内各地（観光施設等）への交通条件の充実を図ります。	町

施策名	目的	
町内の交通条件の改善	町の交通拠点（第二庁舎）などと、町内の観光地や観光施設間を結ぶ交通体系の充実を図るものです。	
個別事業	事業内容	推進団体
デマンド交通の検討	利用者の予約で運行路線を変えるデマンド交通を検討します。	交通事業所・町
シャトルバスの検討	シュウカイドウやシャガなどの開花時季に運行するシャトルバスを検討します。	交通事業所・町
パークアンドライドの検討	各観光施設や公共施設の駐車場を拡充し、各施設間の移動をバスで行うしくみづくりを検討します。	交通事業所・町

## 基本方向 3 ときがわ観光ことづくり(時間づくり)

### 【基本施策 3 - 1】ときがわの体験メニューの開発

施策名	目的		
自然体験メニューの開発	ときがわ町の豊かな自然環境を学ぶ体験メニューの開発を図るものです。		
	個別事業	事業内容	推進団体
	森林(もり)の体験	町有林等を活用し、次のようなメニューを開発します。 【想定されるメニュー】 原木きのご駒うち体験、原木きのご収穫体験、植林体験、下刈体験、枝打ち体験、玉切り体験など	森林組合・町
	里の体験	里山文化園やどんぐり山を活用し、次のようなメニューを開発します。 【想定されるメニュー】 里山の四季体験、里山の生き物学習体験、里山の植物学習体験など	NPO・団体・町
	川の体験	都幾川などを活用し、次のようなメニューを開発します。 【想定されるメニュー】 都幾川源流体験、都幾川の生き物学習体験、都幾川の橋めぐりなど	NPO・団体・町

施策名	目的		
文化体験メニューの開発	ときがわ町の長い歴史や文化を学ぶ体験メニューの開発を図るものです。		
	個別事業	事業内容	推進団体
	神社仏閣の体験	神社仏閣の協力を得て、次のようなメニューを開発します。 【想定されるメニュー】 写経体験、講話体験、座禅体験など	寺社・町
	宇宙の体験	星と緑の創造センターにおいて、宇宙体験の充実を図ります。	施設管理者・町

施策名	目的	
産業体験メニューの開発	農業や木工、製造業などを学ぶ体験メニューの開発を図るものです。	
個別事業	事業内容	推進団体
農業体験	「そばの植え付け、収穫、そばうち」などの体験活動の充実に努めるとともに、体験メニューの拡大を図ります。	施設管理者・協同組合・町
木工体験	ときがわ町の伝統的な木工体験メニューの充実に努めます。	協同組合・町
製造業体験	ときがわ町の製造業の工場などで、ものづくりの楽しさや工夫、難しさなどを体験できるメニューの開発を図ります。	一般事業所・町

### 【基本施策 3 - 2】食とお土産の開発

施策名	目的	
特産品開発	ときがわ町らしいおもてなしをするために、ならではの「食」や「お土産」などの特産品を開発するものです。	
個別事業	事業内容	推進団体
「食」の開発	地域独自の食文化や新しく時代に対応するときがわの「食」づくりを進めます。  【想定される素材等】 青なす、のらぼう菜、アピオス、原木きのこ、とうふ、みかん、はやと瓜、こんにゃく、ひもかわうどん、そば、お手のこう、小昼飯、ときがわ茶など	町民(農家)・一般事業所・商工会・観光協会・協同組合・町
「お土産」の開発	ときがわ町の楽しい思い出となるような「お土産」の開発を進めます。	町民(農家)・商工会・観光協会・協同組合・町
開発体制の強化	特産品開発を地域一体となって進めるため、町で進めている「特産品づくり推進事業」の一層の充実に努めるとともに、生産者など民間事業者の開発活動を支援する制度や体制強化を図ります。	町民(農家)・一般事業所・商工会・観光協会・協同組合・町

### 【基本施策 3 - 3】観光情報の提供体制の強化

施策名	目的		
情報媒体の活用	ときがわ町の観光情報を効果的に提供するため、テレビやラジオ、新聞などのマスコミ媒体の活用を図るとともに、町や観光協会によるホームページの活用を促すものです。		
	個別事業	事業内容	推進団体
	マスコミ等の活用	テレビやラジオ、新聞などのマスコミ媒体に積極的に情報を提供し、観光客に効果的に情報がいきわたるようにします。	観光協会・町
	ホームページの活用	町や観光協会のホームページの充実を図ります。	観光協会・町

施策名	目的		
観光パンフレットの充実	ときがわ町の観光情報を提供する観光パンフレットの充実を図るものです。		
	個別事業	事業内容	推進団体
	総合パンフレットの作成	ときがわ町の観光のすべてが「これ一冊！！」でわかるような、総合的な観光パンフレットを作成します。	観光協会・町
	広域的な取り組み	関係自治体などと連携し、ときがわ町を含む広域的な観光パンフレットの充実に努めます。	観光協会 関係自治体・町
	観光事業所との連携	観光商品の開発や販売にあたっては、観光事業所と連携し、魅力的なパンフレットの作成を目指します。	観光協会・ 一般事業所 (観光事業所)
	町内事業所の情報提供	町内の商店や製造業などの魅力的な情報を提供するため、観光協会を中心とした情報誌の作成を進めます。	観光協会・ 商工会

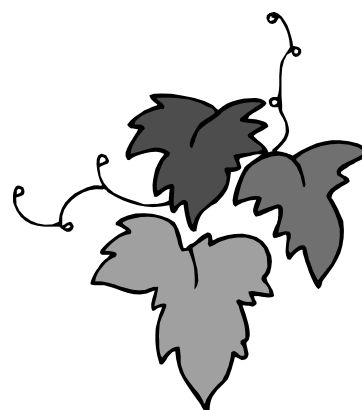
### 【基本施策 3 - 4】誘客力の強化

施策名	目的	
優待券等の活用	ときがわ町に愛着を持って、何度でもときがわ町を訪れてくれる観光客の増加を図るものです。	
個別事業	事業内容	推進団体
町有施設利用優待券	町有施設の相互割引利用券や回数券の発行、施設めぐりスタンプラリーによる賞品提供などを進めます。	施設管理者・町
プレミアム付き商品券等の発行	町外者が町有施設を頻繁に利用した場合に、特典として町内の商店で利用できる、プレミアム付き商品券等の発行を検討します。	観光協会・商工会・町
一日ツアーチケット	路線バスの利用客に対し、一日乗り放題のチケットを発行し、割安で観光施設を巡れるようにします。	交通事業者・町

施策名	目的	
観光イベントの充実	観光イベントを効果的に行い、四季を通じた観光振興を図るものです。	
個別事業	事業内容	推進団体
観光イベントの再検討	現在実施している観光イベントを再検討し、効率的に整理し、イベント相互の連携強化を図ります。	観光協会・商工会・町
地域行事の活用	地域の祭礼などの地域行事は、観光的側面から評価し、観光イベントとして活用を図ります。  その際には、地域の町民の考えや祭礼の由来等に十分配慮し、祭礼の趣旨や考えを損なわないように十分に配慮します。	町民・町

### 【基本施策 3 - 5】観光振興体制の強化

施策名	目的	
観光協会の体制強化	今後の観光振興の中核を担う組織として、観光協会を位置づけるものです。	
個別事業	事業内容	推進団体
財源の確保	観光協会の活動が円滑にかつ効率的に行われるように、町からの補助金等を交付するほか、観光協会の自主財源の確保に努めます。	観光協会・町
人材の確保	観光協会の活動が円滑にかつ効率的に行われるように、町の観光振興に熱意のある人材の確保に努めます。	観光協会
機能の明確化	町、商工会、一般事業者等との観光振興における役割分担を明確にし、観光協会が強力なリーダーシップを発揮できるようにします。	観光協会





# 個別事業の実施期間

## 基本方向1 ときがわ観光ひとづくり(仲間づくり)

施策名 個別事業名	短期	中期	長期	備考
【1-1】町民意識の高揚 町民意識の啓発事業				
広報活動	→			
ふるさと講座等の開催	→			
町民参画機会の提供				
私のおすすめスポット提案事業	■			提案の募集
観光イベントへの参画促進	→			
【1-2】公認案内人の育成・確保・活用 案内人養成講座の開催				
講座カリキュラムの開発		■	→	観光協会による案内人の育成
講座の開催		■	→	カリキュラム開発後、継続実施
案内人の活用				
組織の確立		■	→	
案内コースの開発		■	→	コース開発後、案内人の継続実施

### 実施期間の表記について

「短期」=今すぐに行動する、取り組む内容

「中期」=短期の成果等を踏まえ取り組む内容

「長期」=短・中期の成果等を踏まえて取り組む内容

■ = 事業を実施開始・完了

→ = 事業を継続・充実

( 続き )

施策名	短期	中期	長期	備考
個別事業名				
【1-3】後継者等の育成 観光関連施設従業者の後継者育成				
観光施設従業者育成事業				
農業・林業・木工業後継者の育成				
専門インストラクターの育成				
【1-4】町の宣伝マンの育成 公認ときがわ先達の育成				
公認ときがわ先達の発掘・指名				先達の指名
公認ときがわ先達の活躍の場の提供				先達指名後、継続実施
【1-5】地元企業等の連携・協力 観光事業への参画機会の拡大				
観光イベントへの参画				
町物販施設への出品促進				
特産品づくり推進事業				進行中の特産品開発の研究
事業所施設等を活用した観光コースの開発				
【1-6】観光関係事業所等との連携強化 観光事業所等との連携体制の確立				
協定の締結				協定内容等の精査
観光商品開発				

## 基本方向2 ときがわ観光ものづくり（空間づくり）

施策名	短期	中期	長期	備考
個別事業名				
【2-1】案内標識の整備 主要な案内標識の整備				
主要案内標識の設置	■			現在、計画中の案内標識の設置完了
案内デザインの活用			→	
ロゴマーク等の作成・活用		■		ロゴマーク等の作成
町ぐるみの案内標識等の作成		■		
きめ細かい案内板の設置				
「ときがわ道しるべ」の整備		■	→	
「ときがわ道しるべ」里親制度		■	→	制度の検討
【2-2】観光案内施設・休憩施設の整備 既存施設等の活用				
観光案内機能の強化	■		→	既存施設の活用
事業所の協力	■		→	パンフレット設置等
観光案内所の設置				
観光案内施設の設置		■	→	案内所の設置
休憩所の整備・確保				
休憩所の設置	■			ベンチ等の設置
事業所の協力 「公認お休み処」の設置		■	→	観光協会による公認お休み処の認定
【2-3】観光資源の開発・整備 既存観光資源の充実				
ハイキングコース等の利用促進	■		→	ウォーキングマップの周知と活用
観光資源の磨きあげ			→	
歴史や文化を生かした観光コース・資源の開発				
神社仏閣の活用			→	
城跡を活かした観光			■	城跡の環境整備検討

( 続き )

施策名	短期	中期	長期	備考
個別事業名				
森・花・巨木などを活かした観光コース・資源の開発				
ときがわ 100 年の森づくり ( 林業と観光のまちづくり )			→	
彩りの森ネットワーク			→	
花を活かした観光			→	
お寺の花木を活かした観光			→	
巨木を活かした観光			→	
川を活かした観光コース・資源の開発				
三波渓谷周辺の整備			→	
花菖蒲園・新玉川橋周辺の整備	■		→	
砂防施設の活用				■
環境・省エネルギー活動を活かした観光コース・資源の開発				
環境にやさしいまちづくりのイメージ確立			→	
上サ・スケート場の活用			→	
子ども向け環境教育旅行の開発			→	
自転車を活かした観光コース・資源の充実				
町民の理解促進			→	
サイクリストのマナー向上			→	
自転車による観光の安全確保			→	
自転車で巡る観光コースの開発	■			コースの検討
自転車駐輪施設の整備	■			駐輪施設の整備
貸自転車の整備		■		貸自転車の確保
自転車競技大会の開催			■	競技大会の開催

( 続き )

施策名	短期	中期	長期	備考
個別事業名				
【2-4】町有施設の充実 観光施設の充実				
施設の整備・リニューアル	→			
来訪者のニーズにあった施設運営	→			
町有施設間の連携強化	→			
【2-5】交通システムの整備 町外からの交通アクセスの改善				
バス路線の充実				
交通拠点の形成				
町内の交通条件の改善				
デマンド交通の検討				
シャトルバスの検討				
パークアンドライドの検討				

### 基本方向3 ときがわ観光ことづくり（時間づくり）

施策名	短期	中期	長期	備考
個別事業名				
<b>【3-1】ときがわの体験メニューの開発</b>				
自然体験メニューの開発				
森林（もり）の体験				
里の体験				
川の体験				
文化体験メニューの開発				
神社仏閣の体験				
宇宙の体験				
産業体験メニューの開発				
農業体験				
木工体験				
製造業体験				製造業体験メニューの開発
<b>【3-2】食とお土産品の開発</b>				
特産品の開発				
「食」の開発				研究・開発
「お土産」の開発				研究・開発
開発体制の強化				体制強化

( 続き )

施策名	短期	中期	長期	備考
個別事業名				
<b>【3-3】観光情報の提供体制の強化 情報媒体の活用</b>				
マスコミ等の活用			→	
ホームページの活用			→	
<b>観光パンフレットの充実</b>				
総合パンフレットの作成			■	観光協会による作成
広域的な取り組み			→	
観光事業所との連携		■	→	
町内事業所の情報提供	■		→	観光協会等による情報紙作成後、継続発行
<b>【3-4】誘客力の強化 優待券等の活用</b>				
町有施設利用優待券	■		→	優待券等の発行
プレミアム付き商品券等の発行		■		商品券等の発行
一日ツアーチケット	■		→	
<b>観光イベントの充実</b>				
観光イベントの再検討			→	随時検討
地域行事の活用			→	随時検討
<b>【3-5】観光振興体制の強化 観光協会の体制強化</b>				
財源の確保		■		
人材の確保		■		
機能の明確化		■		

---

---

## 第5章 計画の推進にあたって

---

---





# 1 計画の推進

計画を推進する上での役割や実施体制のほか、計画を進行管理し、評価していく方法等を示します。

## (1) 数値目標

本計画に掲載した事業を着実に実現するため数値目標を設定します。この数値目標は事業の実現状況を検証する際の「指標」となるものです。

指標名	現状値 (平成20年)	目標値 (平成28年)
観光客数	84万人	100万人(約20%増)
町有施設売上金額	5億7千万円	7億円(約25%増)
公認案内人数	0人	20人
公認ときがわ先達数	0人	5人
観光協会専属職員数	1人	3人

## (2) 計画推進上の留意点

かつてのリゾート開発のように、とかく、観光振興は目先の流行や時代の趨勢に流されがちなところがあります。ときがわ町の目指す観光は、地域の環境をしっかりと“あるがまま”に保全しながら、地域の環境こそが『ときがわ町の唯一無二の観光資源』という姿勢を貫くことが重要です。

このようなことから、計画推進上の留意点は以下ようになります。

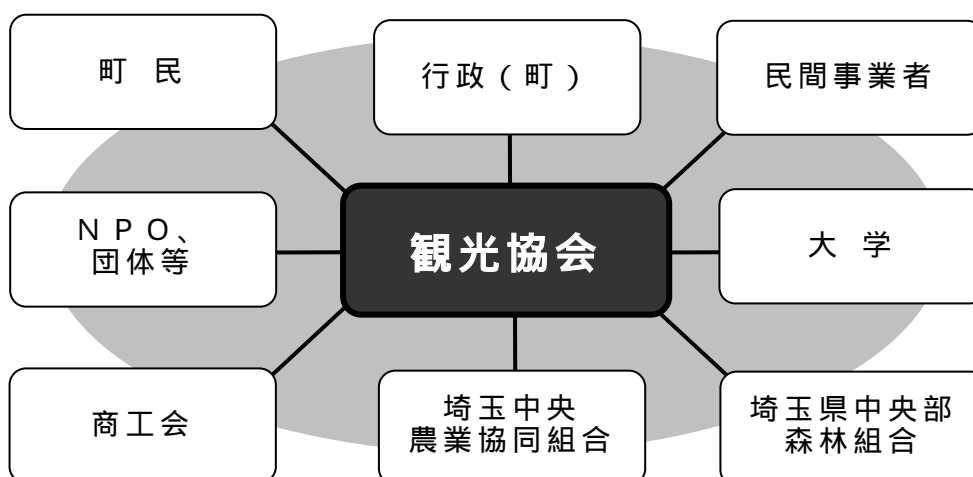
項目	内容
すべての町民の参画と利益	ときがわ町には大きな観光産業があるわけではありません。ときがわ町のすべての観光振興事業には町民が何らかの形で参加できる機会を設けていきます。観光振興による有形無形の「利益」が、数少ない人に帰属するものであってはなりません。できるだけ多くの町民がそれぞれの立場や役割に応じて、相当の「利益」を得ることができるように配慮します。
ときがわ町らしさ(地域イメージ)の保全	ときがわ町の観光資源は「今のあるがままの姿」ということを強く自覚します。森林や河川の形状を大きく変えたり、景観を大きく損なうことのないように、「地域イメージの保全」に最大限努めることにします。
持続可能な長期的展望に立った取り組み	ときがわ町の観光振興事業は一時的なものではなく、50年、100年という世代を超えるような長い視点が必要です。そのためには、イベント事業などにおいて、過剰な力の入れ方や派手な演出は控え、町民が毎年「疲れることなく、楽しみに参加できる」ような配慮が望まれます。

### ( 3 ) 観光協会の役割

本計画は、すべての町民が参加し推進していくことが大切であり、そのためには、「行政」、「町民(各種団体であるNPO、施設運営関連地域団体等を含む)」、「町内外の事業所」等がともに協力していく必要があります。これらの主体の行動を総合調整し、相互の円滑な連携を図り、事業を効率的に推進する役割が欠かせません。

特に、民間事業活動に近い活動や臨機応変な対応などは、町行政では困難な場面が多くあります。多様化する観光客や事業者のニーズに早急に対応していくためには、しっかりとした組織が必要であり、その担い手として観光協会の役割が重要となります。観光協会を中心として、町民、行政、民間事業者、商工会、農協、森林組合、大学などと連携しながら観光振興を推進します。

#### 【観光協会を中心とした観光振興】



### ( 4 ) 計画の進捗状況の評価・点検

本計画の進捗状況は、「第一次ときがわ町総合振興計画」の基本計画の見直し時(平成23年度)に整理し、評価・検証を行います。さらに、評価・検証結果をもとに「第一次ときがわ町総合振興計画後期基本計画」策定に併せて、計画内容の修正等を行います。

なお、評価・検証結果は町ホームページ等にて公表するとともに、町民の意見等の収集を併せて行います。

---

---

## 資料編

---

---



## 計画策定の経過

日時	内容	備考
21.8.19	第1回 観光振興計画検討委員会 1) 委嘱書の交付 2) ときがわ町観光振興計画の概要について 3) 基調講演 大東文化大学環境創造学部 土井 幸平教授 4) 意見交換	検討委員会の皆さんに、「観光振興意識調査シート」への記入を依頼。
21.10.7	第2回 観光振興計画検討委員会 1) ときがわ町観光の現状と課題について 2) ワークショップについて グループ分け テーマについて	ワークショップは2グループに分かれて議論した。 Aグループ「自家用車利用者」の観光コース Bグループ「公共交通機関利用者」の観光コース
21.10.23	Aグループ ワークショップ	
21.11.3	木のくにときがわまつり来訪者意識調査の実施	回答者数 219 人
21.11.5	Bグループ ワークショップ	
21.12.2	第3回 観光振興計画検討委員会 1) ワークショップの成果発表 2) 計画骨子について	
21.12.4	町有施設従業者意識調査の実施	回答者数 43 人
22.1.20	第4回 観光振興計画検討委員会 1) 観光振興計画素案について 2) パブリックコメントについて	
22.2.5~	パブリックコメントの実施	パブリックコメント 意見者数 4 人
22.2.24	第5回 観光振興計画検討委員会 1) ときがわ町観光振興計画案について 2) その他（パブリックコメントの対応）	
22.3.10	第6回 観光振興計画検討委員会 1) ときがわ町観光振興計画について	

## 検討委員会（ワークショップ）の主な意見

### 1) 計画策定方法について

- ・インターネットで他の自治体の観光振興計画をみると、どこも似通った内容のように思える。ときがわ町らしさを出すためには、十分な検討が必要。町の持っている観光資源を洗い出し共有化する。
- ・観光振興計画で、地域経済の活性化を図るためには市民との協働が不可欠。市民の参画意識を高め、市民参加の仕組みをつくる。
- ・テーマごとの分科会を行い、全体討議など工夫が必要ではないでしょうか？
- ・全体で進めるのであれば、事前に資料を送付いただき、論点をあらかじめ提示し協議を活発に行えるようにするなど一案ではないでしょうか？
- ・青年たちと女性の意見を反映できれば良いと思う。
- ・具体策の検討は小寄り合いのディスカッションが望ましい。
- ・近年は全国的に少子高齢化が叫ばれている中、ときがわ町に生まれ育った人が転出されている。この現状を踏まえ将来を見据えた計画等を策定する場、ときがわ町には何が不足か、何を求めているのか将来を担う若者の考えも参考にしては。
- ・計画ができれば予算化するのではなく、可能（支出）予算を先に出して、それにともなって計画を作らなければ何の意味もない。

### 2) 計画の基本的考え方（コンセプト）について

- ・ときがわ町の観光について、どのような理念、方向を目指すのかが大事。
- ・多くの観光客が来町し、喜んでいただく、そして、その喜びが町民の喜びとなるような計画がほしい。観光客だけが良くてダメ、また、逆に町民だけが良くてダメ。観光客もよかろう、町民もよかろう、そして、町も少しよかろう。そんな精神をお願いします。
- ・ときがわ町の印象は「緑と清流の豊かな自然環境」であり、これがこの町の魅力、緑や清流の質の向上に努め、生きものの生息できる環境を充実させる。
- ・まず、キャッチフレーズ。ときがわのどの部分をアピールするか！！
- ・団体客のバス旅行よりは、熟年対象。それも中高年カップルをターゲットにした方が良いと思います。
- ・観光の目的は、あくまでも地域住民の生きがいづくり、幸せづくりが基本です。ときがわの物質的大きさ、伝統文化、人口等、十分に配慮した計画を望む。
- ・観光振興計画についての共有化と参画意識を高めるため、ワークショップを行い、市民を巻き込み、とことん議論する必要がある。
- ・観光の一次、二次の地域産業振興への波及と相互関係の道筋をわかりやすく示すこと。
- ・計画の理念を町内で共有すること。

### 3) 観光PRについて

- ・町民に町の良さを町外にアピールする手立てを作ってはどうか？
- ・町のイメージキャラクターを公募してはどうか？
- ・宣伝マンを育成してPR活動をしていただいてはどうか？
- ・東京都内に観光案内所を設ける。(複数の市町村と合同で)

### 4) その他の具体的提案

#### (経費を考える)

- ・時代はどう変わるかわかりませんが、管理上の費用が少ない事業展開を考えるべき。花菖蒲園による経済効果を考えると費用が課題では。

#### (広域的な観光)

- ・越生町、毛呂山町との3町の観光マップがあるが、嵐山町、小川町との東武東上線を利用した観光ルートも一考。

#### (子どもをターゲット)

- ・子どもが来れば、必ず親がついてくるので若い世代に町の良さをアピールしてはどうか？

#### (総合振興計画の実現のために)

- ・「美しいまちづくりプロジェクト」については、早急に景観条例などで看板の規制を図るべきである。第一次総合計画書に表記されている文言で、集落や街並みだけでなく、森林・田畑も明記すべきであろう。
- ・「新しい地域創造プロジェクト」と「新町としての連携強化プロジェクト」については、新しい大きなイベントを開催することで共通の項目になりうると思う。
- ・「活力と安心のまちづくりプロジェクト」はむしろ、ここ数年、町の活性化に貢献しているときがわ町産の農産物、農業に光を当てるべきではないかと思う。
- ・食は生きるための基本であり、食の安心・安全が評価されて然るべきである。現在のときがわ町の農業は活気があるが、少子高齢化を踏まえて後継者不足に陥らないためにも、この活気を次世代、また次の世代へと引き継ぐことができるように、農業に今以上に力を入れ、若い人が農業で経済的に自立できるようなサポート体制を作りあげるべきである。耕作放棄地をつくらないために、行政が積極的に耕作希望者のあっせんに係るべきであろう。

#### (住民の役割)

- ・観光地として一級品になるためには、町の人々の「もてなし心」も必要だと思う。

#### (地域の活性化)

- ・大野東松山線など、沿道に空き店舗が目立ち寂れた印象を受ける。



## 観光の“売り”としたい「もの」「こと」「しくみ」「ひと」など

観光の“売り”としたい内容について、検討委員会等で提案された内容を整理しました。

1) 体験	
「匠の邑」	ジャンルを問わず木工や工芸の職人を誘致する。 ・廃業した木工所や空き家を町が管理し窓口になり希望者に貸し出す（空き家登録制度のようなものを設ける） 町管理の共同利用ができる大きな木工所を設置し、道具類も自由に使えるようにする。 ・大柵第一小学校跡地の利用 体育館を共同工房に、校舎炊事・自炊設備のある部屋とギャラリーにリフォームし各利用者が泊まりがけで利用しやすいようにする。自炊が苦手な人のために宿泊のみでも可とし、その場合の食事は地元の方にしていただけの体制も整える。 ・土日祝日は有料のオープン教室を開講し工作程度から上級者向けまで対応できる地元職人やDIYアドバイザーによる指導体制をとる。指導者にはそれなりの報酬を払う。 ・オープン教室に関しては段階に応じた修了証を発行し、受講者のスキルアップを図ることで、リピーターになってもらうようにする。 ・コンクールを行い職人のスキルアップを図る。優秀作品は町で買い上げる。それを景品などにすることで、宣伝を兼ねまた職人の経済基盤を支える一助とする。
体験型観光の開発	市民農園、里山を活用した自然体験、廃校を活用した宿泊体験施設トレッキングルートの整備と案内板の設置。
木工製品	見せるだけでなく、コースターなど小物の製作体験をさせる場があったらいい（長期滞在させて、椅子やタンスなどを作らせたらか）。木の温かみを生かした家具、インテリア、おもちゃなども人気ができるのではないかな。
清流	釣りや、つかみどりはできないか。釣ったものを調理して食べる施設が必要では。
里山体験	里山保全をしているNPOが実施している炭焼き体験など、里山でしか体験できないツアー。町内のNPOが実施主体。
古民家を活用した宿泊施設	古民家を改築して、のんびり自由な時間を過ごすための宿泊施設を整えたらどうか。
子ども向けの自然体験ツアー	夏休みに一週間程度の子どもの向けのツアー。共働き家庭も増えており、夏休みの子どもの処遇に悩んでいるので人気が出ると思う。子どもがときがわ町のよさを知れば、次回はファミリーでの来町が期待できる。
自然環境を活かした体験学習の場	里山保全体験等を組み込んだキャンプやエコツーリズム、グリーンツーリズム。里山の中の仕事道に道標を整備して、案内人が案内する。
歴史のロマン	慈光寺を中心とする「狼煙（のろし）」の体験と効用。情報文化の歴史とロマンを体験する。
団塊の世代	定期的な文化講座の開催 歴史散策 古木・巨木巡り ハイキング

2) 自然	
都幾川	県や武蔵漁協などとも協力し、自然の川を取り戻し魅力を高める。
自然（山、川）	きれいな山・川（都幾川）が売り。
天文	堂平観測所跡地、星と緑の創造センター。

3) 歴史・文化	
「祈りの道」の普及・宣伝	<p>古くから慈光寺をはじめ、ときがわ町には数多の神社・仏閣があった。そして、国宝をはじめとする文化財が非常に多く保有され、現代人の心を癒す空間が豊富に残されている。寺社に参拝料を設け、これまで以上に門戸を開放してもらうことで観光客の増加を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「坂東札所」慈光寺への道</li> <li>・禅寺への道：参禅</li> <li>・入間・比企郡にまたがる「入比坂東 33ヶ所」への道（17ヶ所が町内に）</li> <li>・四国 88ヶ所、西国 33ヶ所供養の道（正法寺の裏山に四国 88ヶ所、西国 33ヶ所）</li> <li>・修験の道：多武峰はもともと修験として有名である。廃寺となった寺も多くある。旧都幾川村だけでも 20 余あるが、うち半数以上が大野・櫛平地区の修験の寺である。</li> <li>・戦いへの道：小倉城・大築城跡</li> </ul> <p>こうした遺産を巡ってもらうためには、廃寺を含めた案内板の設置が重要である。</p> <p>石による「道標」も多く残されており、地元の人にも知らないものもあるかと思う。旧都幾川村だけで 45 基の石造物が残されている。自分たちが生活している土地の歴史を後世に伝えるためにも、観光客のためにもそうした案内板が重要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平宿に門前町を復活させる。レトロな街並に統一することで、若い人も取り込めるのではないだろうか。</li> </ul>
慈光寺	一番の理由はこの名刹が首都圏の中にあって、あまり知られていないことである。ときがわ町観光の目玉になる可能性がある。
こと	伝統、衣食（住）、無形の財産。

4) スポーツ	
パラグライダー	町内に 3ヶ所もパラグライダースクールがあるのは、非常に珍しいと思う。この 3校に協力してもらい、年に一度パラグライダーフェスティバルを開催する。若い人にときがわ町の名前を認知してもらうために良いと思う。
自転車	「ツール・ド・ときがわ」を開催し、玉川地区から堂平までのコースを走り抜けてもらう。自転車愛好者は増加傾向であるのでファミリー、一般、上級者向きに選択肢を持たせたコースを設定することで多くの人に参加してもらえ、それぞれのスキルアップも目指してもらえようにする。
駅伝練習地	近隣には箱根駅伝出場希望の駅伝部を擁する大学が数校あることから、堂平近辺をメインとした練習地を売り込み、希望があれば合宿所などのサポートも行う。若い人に町内に入り込んでもらうだけで活性化が図れる。

5) 農地	
観光農園	遊休農地の解消。
4～5年後	農地（荒れた）整備を行い、大きな公園の整備。

6) 森林	
森林の活用	50年後を考えるなら手入れの行き届いた大木林に、木もれ日がとどき、大地に草木が根を張り、その中に林道（歩道）でおいしい空気を吸いながら楽しめる。

7) 観光施設	
建具会館	地元の名工が作った建具・木工・工芸品は旅行者には大きな魅力ある素材となる。
木のむら物産館、大野特産物販売所	今、首都圏で全国の各県物産販売所が多くできて、大変なブームになっている。それだけ、地元の農産物は採りたてで、人気がある。
大附そば道場	今後「体験もの」が大きな日帰り観光の中心になってくる。中高年の趣味にもあっている。
埼玉県砂防発祥の地	砂防施設を巡る散策コースなどを作り観光に活かす。

8) 味覚・食	
当地グルメ	安く旨い食べ物、関係する業者に開発依頼。
原木きのこ	原木きのここと地元の野菜で鍋や汁ものなどを開発したらどうか(山形の芋煮のような感じ)。お土産になるように自宅で栽培できる。
地の味覚	観光に来るには、景観を見るだけでは来ない。何かおいしい食べ物、また、ときがわでしかないもの等が買えなければ1回は来るが、2～3回は来ないと思う。

9) 人材の活用	
案内人・説明ボランティア	地域ごとの町の魅力を含めて説明のできる個人の育成・活用。
人材育成のしくみ	ときがわ学検定、ときがわ案内人、ときがわのよさを広める会
ひと	町民が主役の観光計画、町民がときがわを良く知り、伝える
定年退職後の高齢者等と文化財	地元学の探究などを通じて、町の自然や文化を案内する「里山案内人」の育成。積極的に市民が参加できるしくみを作る。各人の得意分野を案内する。
人材育成	年代別に町の案内ができる人材を育成し、活躍できる場所を設ける。案内は全国で実施している地域は多いが、シルバー人材が主流で若者の抜擢は少ない。学生や現役社会人でも楽しんで取り組める制度をつくることで実現できるのでは。
地元案内人	地元の人を中心に案内人を育成する。

10) しぐみ	
団体旅行の入場制限政策の実施	この政策は一般的に見れば逆行しており、話題になり、この政策内容をしっかり構築できれば、町の継続的な息の長い観光事業が展開できると思われる。
観光関連施設の連携強化	施設間の紹介実践、施設の美化運動の徹底(他の施設の美化をみんなで検証する日を設ける=各施設の概要も分かり紹介しやすくなる効果も望める)など
町独自のパスポート発行	リピーターを増やすために、特典付きパスポートを発行し、町内施設利用、買物回数に応じてポイントをつける。景品はポイントに応じた町内産木工芸品とする。
フィルム・コミッション	映像による集客効果、地域おこし効果、撮影隊受け入れによる経済効果。
滞在時間	日帰り客の多い当町では、滞在時間を多くすることで消費の拡大、経済効果が増す。
水と温泉	都幾川の水源をもつ地であるときがわ町でペットボトル詰めの水を産地限定で販売する。新しく起業することで多少の雇用も生み出せる。温泉スタンドがあるが、観光客にも購入しやすいようにポリタンク販売体制を整える必要がある。やはり、水と同様産地限定販売とする。

( 続き )

大型イベントの充実	花菖蒲まつりなどは1万名以上の来場者がある。大型イベントがあり、これを核としてときがわ町の魅力を発信する。一大イベントの位置づけとし、イベント内容などを戦略的に展開する。
多様なツアーコースの設定	里山体験ができ、意外性のあるツアーコースを提示し、客層・ニーズを掘り起こす。
景観憲章・条例	景観や環境を保全、育成する強い意志を示す。
次世代参加	子どもや青少年世代の参加と交流のプログラムを充実させる。

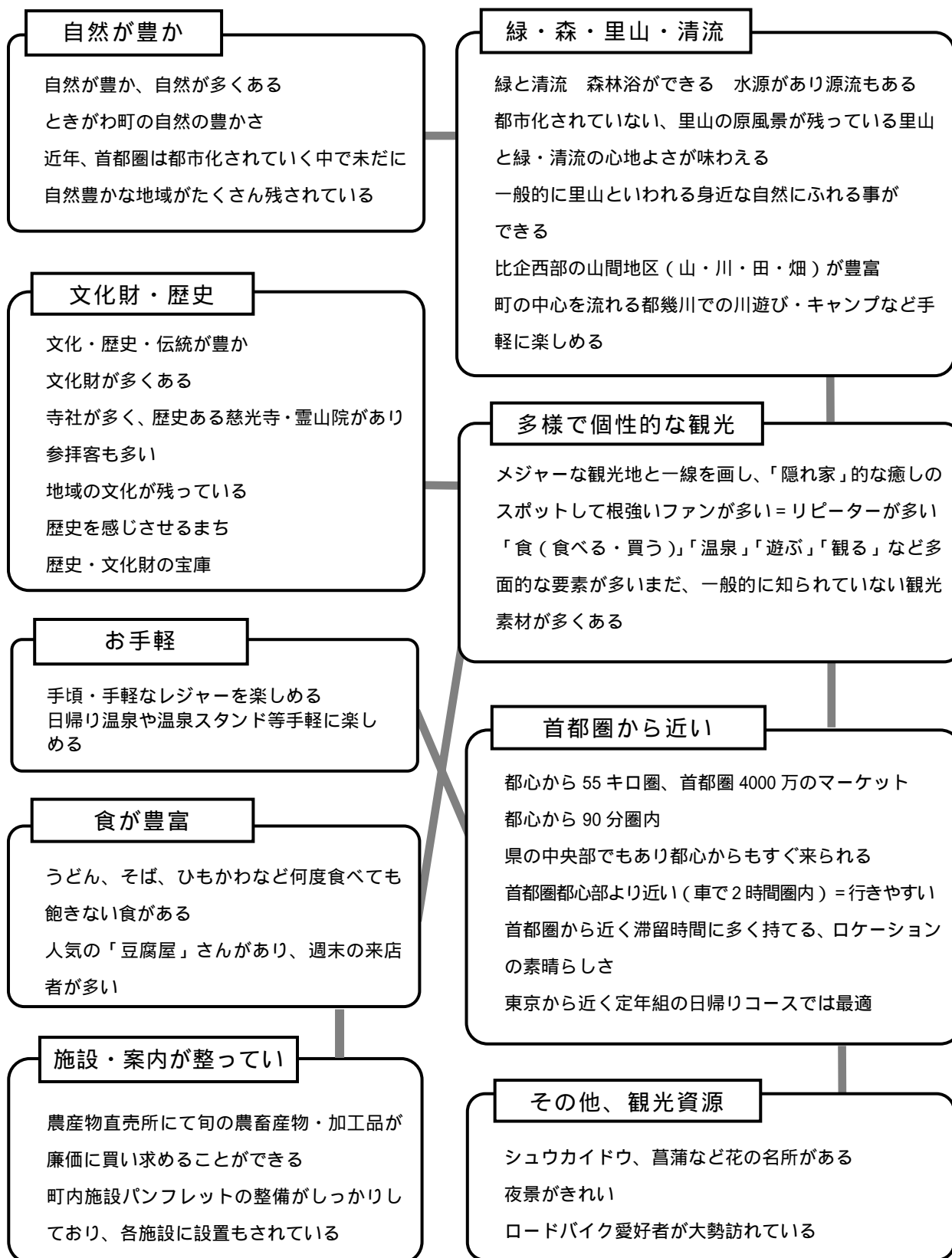
11) 情報発信・P R	
宣伝・印刷物	個人のP Rを中心にブログ・HP等を広く活用、携帯電話への情報の提供、1年を通してイベント等をP R (ポスターの作成)。また印刷物の共通化。
インフォメーションセンターの確立	問い合わせ等の一本化。また休日への対応の検討。
文化	都幾山慈光寺 ( 国宝 ) のP R。
P R方法	報道機関や業者 ( 観光 ) 近隣の市町村と連携したP R方法。

12) 公共交通	
小型の巡回バスの運行	各施設が点在しているため、音声の観光案内付き ( または、ガイド ) の小型巡回バスを運行する。
交通の革命	嵐山P Aからシャトルバスで～嵐山駅経由での交通革命を。

13) まち観光のコンセプト	
観光イメージづくり	他の観光地との差別化の確立。
あなたの隠れ家 = ときがわ町のコンセプトで町起こしを展開もの	自然環境や景観は一度壊れてしまうと復活させることは困難極まりないと思います。今ときがわ町を訪れる方々の最大のニーズを磨きあげることが、町にふさわしいコンセプトと思います。
「木のむら」「木のくに」の確立	自然、環境。整備は必要だがあまり、環境を損ねるものであってはならない。
今すぐ	慈光七木・七井・七石のP R及び花の咲く木 ( 四季を通じてロウバイ・ヤマブ・ムクゲなど。食べられる木 ( ギンナン・シイ・マタタビなど ) の発掘及び普及。
	旧村の地域でなく、ときがわ町全体で故郷づくりを行う。

## 町の強みと弱み、時代背景の追い風と逆風

### 1) ときがわ町の強み



## 2) ときがわ町の弱み

### 交通が不便

明覚駅を利用する場合本数が少ないため不便  
電車を利用した場合観光施設が散在している  
ので移動が大変  
交通の便が悪い  
電車利用者にとって交通が不便であり、加えて観光施設が点在しているため、町内巡りには手軽に廻りにくい、交通手段が少ない、公共交通機関が不便、自動車を運転しない人には遠いと感じる  
ＪＲ、バスなど公共交通へのアクセスが悪い  
通手段がマイカー中心で客の増加が不安

### PR不足・認識不足

観光地には駅前に案内所があるが、案内板のみである。  
国宝のある町でありながら国宝をアピールしていない  
資源があるのに活用しきれていない  
町の魅力を地元住民が把握していない  
ときがわ町ならではの町の魅力が町内外に十分認識されていない。理念が未成熟

### 宿泊施設がない

宿泊場所がない（大人数に対応できるのを含む）  
宿泊施設がほとんどない  
キャンプ場が中心。  
中高年が宿泊できない

### その他

首都圏より近すぎて日帰り来訪者が主流  
来訪者の消費単価が低い（データ参照）

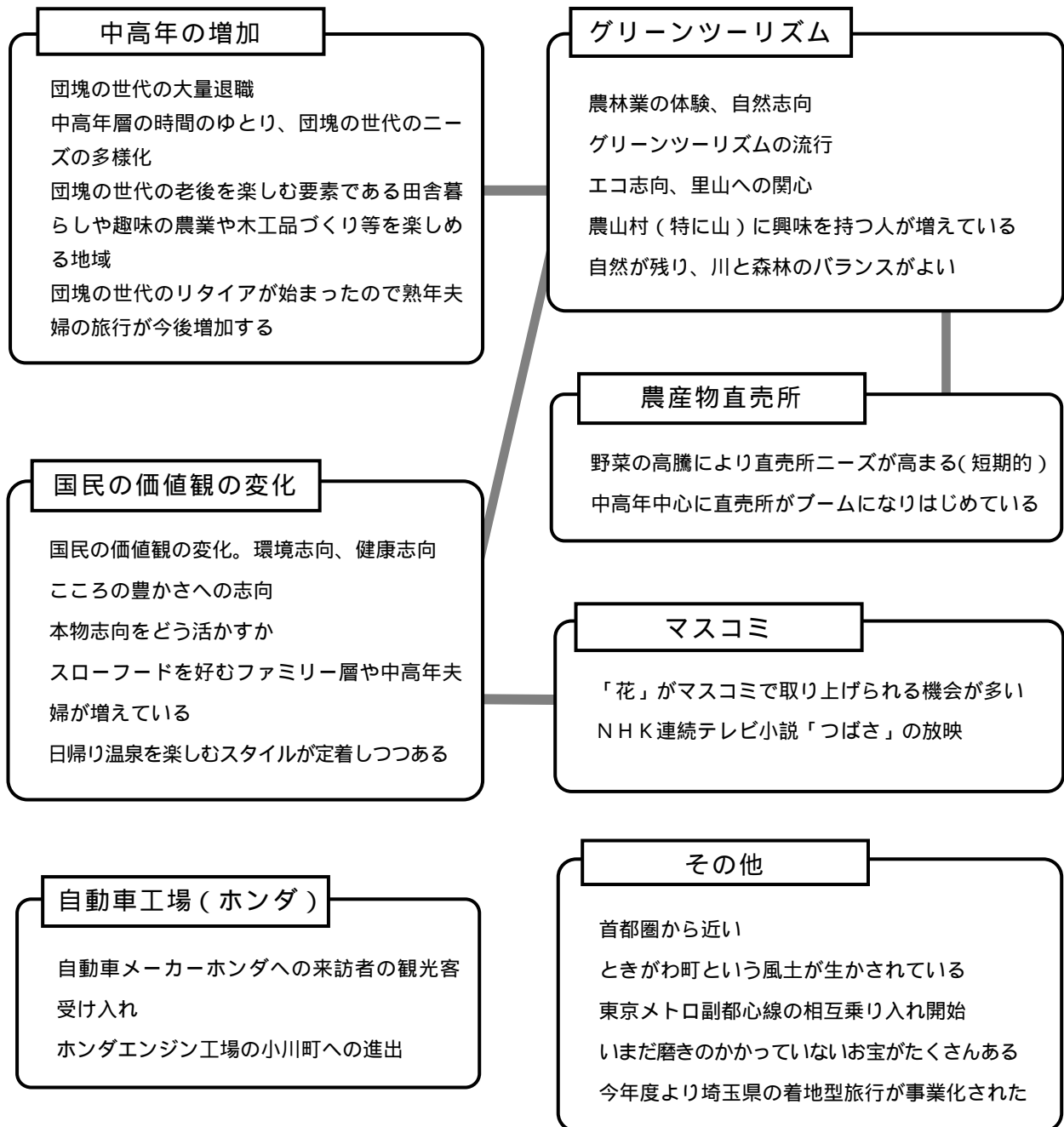
### 施設の規模が小さい・少ない

桜・花桃・草花等観光施設として売り出しているが規模が小さい  
食事場所が少ない、駐車場が少ない  
観光スポットの規模が小さい  
観光の目玉（中心）が存在しない、観光場所が散在している  
四季を彩る大規模イベントが少ない（花菖蒲まつり）

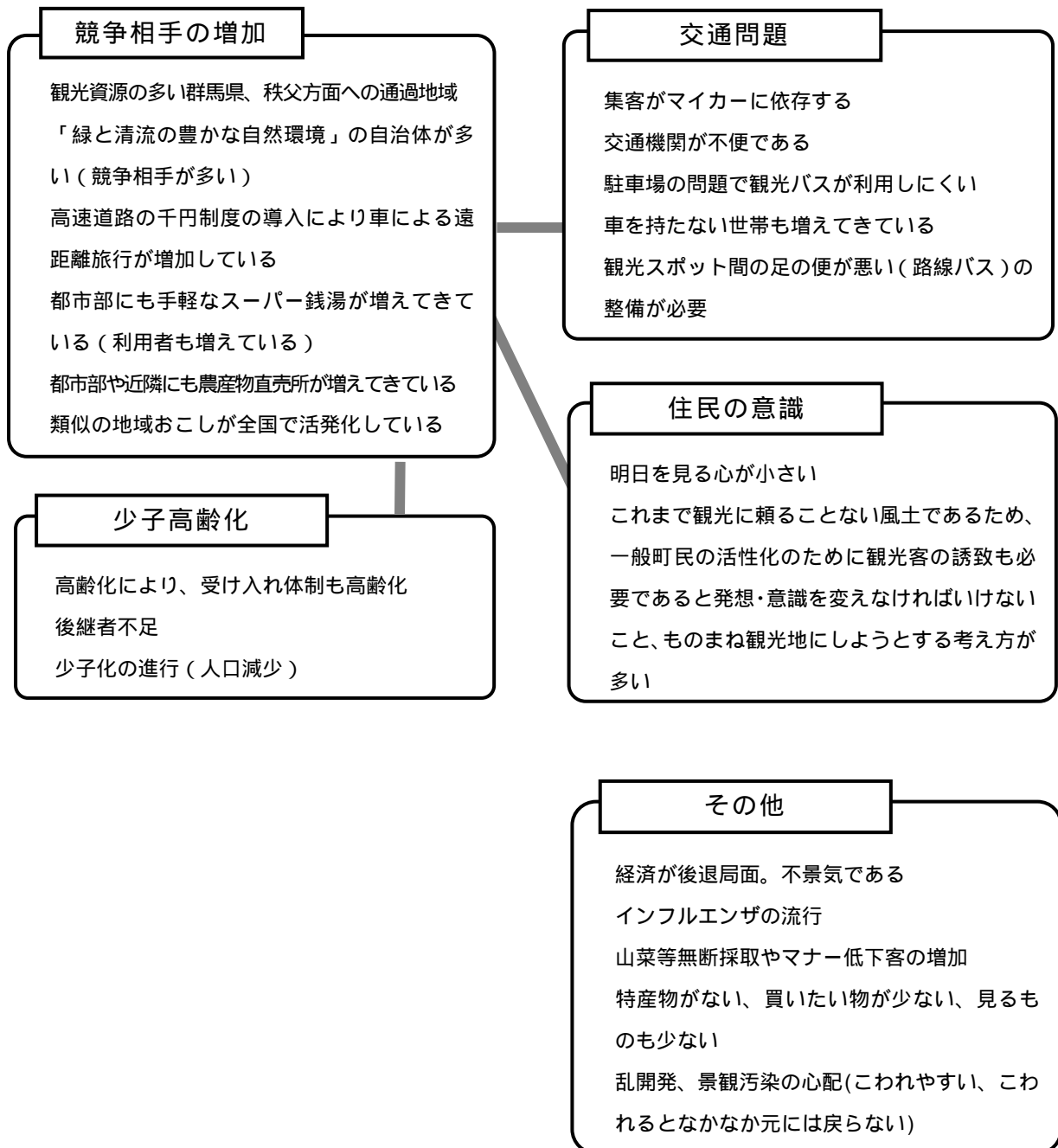
### 多客数に対応できない

30名以上の団体に対応できる飲食施設がない、  
観光バスでの団体客の対応に対して全般的に整備されていない  
大勢の客を受け入れられる場所がない  
これ以上の車が来ると駐車場が心配である

### 3) 時代背景等の追い風



#### 4) 時代背景等の逆風





ときがわ町の観光資源（平成 21 年度 町ホームページから）

1) おすすめ観光コース（町営路線バスを利用した観光コース）

時期・コース名		内容	コース
1	4月中旬～5月上旬「慈光寺桜・シヤガの鑑賞と日帰り温泉」	慈光寺の参道に咲き誇る桜やシヤガの花をお楽しみください。	越生駅～ときがわ町路線バス～慈光寺～霊山院～やすらぎの家～建具会館～都幾川四季彩館～ときがわ町路線バス越生駅
2	坂東札所めぐり	第九番札所（都幾山慈光寺）から吉見町の十一番札所（岩殿山安楽寺 吉見観音）の3か所への参拝。	越生駅～ときがわ町路線バス～慈光寺～ときがわ町路線バス～越生駅～坂戸駅～高坂駅～川越観光バス～巖殿山正法寺（岩殿観音）～川越観光バス～高坂駅～東松山駅～川越観光バス～吉見町巡回バス～岩殿山安楽寺～吉見町巡回バス～川越観光バス～東松山駅
3	くぬぎむら編	山村体験ができる「くぬぎむら体験交流館」ツアーのご案内です。	明覚駅～ときがわ町路線バス～日向根～ときがわ町路線バス～建具会館～都幾川四季彩館～ときがわ町路線バス～明覚駅
4	上サ・スケート場 12月下旬～	大自然の中にある天然氷でアイススケートをお楽しみください。	越生駅～ときがわ町路線バス～正法寺入口～上サ・スケート場～ときがわ町路線バス～やすらぎの家～建具会館～都幾川四季彩館～ときがわ町路線バス～越生駅
5	季節の果物と癒しの空間満喫ツアー（秋限定）	甘みと酸味のバランスのよいときがわ町徳さんのみかん狩りツアーのご案内です。	越生駅～ときがわ町路線バス～深町～木のむら物産館～大イチョウ～ときがわ町路線バス～大附そば道場～大附みかん園～ときがわ町路線バス～桃木～都幾川四季彩館～ときがわ町路線バス～越生駅
6	紅葉編	ときがわ町の隠れ紅葉スポットのご案内です。	越生駅～ときがわ町路線バス～慈光寺～霊山院～やすらぎの家～建具会館～都幾川四季彩館～ときがわ町路線バス～越生駅

それぞれのコースには「平日コース・休日コース」「越生駅コース・明覚駅コース」があります。

町営路線バスには1日ツアーチケット（大人500円/子ども250円）があります。

2) ときがわトレッキングコース

コース紹介内容	コース
<p>1,300年以上の歴史を誇る、国宝や国指定の文化財を有する坂東九番札所・慈光寺や東国最古の禅寺・霊山院、日本の天文学を支えた堂平天文台（旧東京天文台堂平観測所）を巡るコースです。堂平山頂は一都六県を一望できる絶景の場所です。</p> <p>堂平山の山名の由来は、昔、この頂きに慈光寺の奥の院があったことに由来するといわれています。</p>	<p>J R 八高線明覚駅 ～ときがわ町路線バス ～慈光寺入口バス停車 ～慈光寺・霊山院 ～星と緑の創造センター ～堂平山天文台・堂平山山頂 ～剣ヶ峰～白石峠 ～白石車庫バス停 ～小川町駅</p>

### 3) 見どころ

場所・時季	紹介内容等
花桃の里 4月上旬	地域住民団体の花桃の会の皆さんが、花桃の咲く里づくりによる地域の活性化と心のふれあう住みよい地域社会をつくることを目的に、平成8年から植栽などの活動を行っています。毎年4月には花桃まつりが開催され、多くの人で賑わいます。
慈光寺歴史公苑の桜 4月	八重桜は4月中旬のころ、新緑の中に豪華に咲き誇り、春の名残を告げる惜春の花ともいえます。1300年の歴史を持つ古刹 慈光寺に続く山麓の門前町から本堂までの2キロメートルの参道には、270本の八重咲きの「一葉」と「普賢象」が咲き誇り、隣の鎌倉時代に創建された霊山院に昇る坂にも紅、白、黄の里ざくら群が見ごろとなり、野生の山ザクラとともに桜のコレクションとなりました。都会の喧騒を離れて、山里の自然の中で、ゆっくりと歩きつつ、様々な桜を楽しんでください。
慈光寺歴史公苑のシャガ 4月下旬から5月下旬	ときがわ町内に新緑の季節の訪れを告げるシャガの花は、人里近くの森林周辺の木陰など、やや湿ったところに群生しています。開花期は、例年4、5月くらいで、白っぽいアヤメに似た花をつけます。群生地は都幾山慈光寺周辺を中心に、町内で可憐な姿を目にすることができます。
たまがわ花菖蒲園 6月中旬	住民花づくりグループ「花菖蒲を育てる会」が町おこし・地域活性化のためにと遊休農地7,500㎡に8,200株の花菖蒲を植え付けました。大切に育てた花菖蒲が色鮮やかに咲きそろいます。園内には輪留めなど車いすの通行にも配慮した木製遊歩道が設置されていますので、ゆっくりと散策ができます。ご家族揃ってご鑑賞ください。6月中旬には花の見ごろとなり、多くの方が鑑賞されています。
雀川砂防ダム公園のアジサイ	開花時期：6月中旬～7月上旬
建具会館西側花畑 ヤグルマギク、ポピー、コスモス	建具会館西側花畑は、遊休農地解消とうつくしいまちづくりの推進のため、農業委員会と地域振興室でモデル事業として取り組んでいるものです（花畑の面積は約3,300㎡）。木道も整備されており、花々の中をゆっくりと巡ることができます。
慈光寺歴史公苑	ときがわ町は「慈光の里」。1,300年の歴史を現代に伝える慈光寺とともに栄えてきました。寺に伝わる縁起によると天武天皇2年釈迦の遺徳により、また同9年役小角により、さらに唐僧鑑真の高弟である釈道忠により開かれたと伝えられています。その後、貞観13年の大般若経が伝来しているように、平安時代になると一層繁栄し、清和天皇から「天台別院一乘法華院」の勅額を与えられたと言われています。また、鎌倉時代になると、源頼朝から仏像と田畑1,200町歩の寄進を受けたとも言われ、幕府祈願寺として手厚い保護を受けました。このころ一山75坊を擁する大寺院として、隆盛を極めていたと思われます。しかし、源氏滅亡とともに寺も衰え、室町・戦国時代は厳しい試練を受けました。江戸時代になると寺領100石が与えられ、その後の歴代住職の懸命の努力によって現在に至り、1,300有余年の法灯を保ち続けています。

( 続き )

<p>桐平のシュウカイドウ 8月下旬~9月下旬</p>	<p>桐平のシュウカイドウの群生地では、8月下旬から9月下旬に可憐な淡紅色の花を咲かせ訪れる人を楽しませています。「秋海棠 西瓜の色に咲きにけり」 芭蕉の句にも歌われた秋を告げる花「シュウカイドウ」が淡紅色の花を咲かせ見頃を迎えました。</p>
<p>春日神社の杜</p>	<p>この森は鎮守の杜として、人々に親しまれてきました。冬でも豊かな緑の葉を具えたスダジイやアラカシ、タブノキ等の大木がこんもりと繁り、林内にはヤブツバキやサカキ等が多数育って風格のある照葉樹林となっています。この照葉樹林は遠い昔の玉川地区の自然の姿を今にとどめているふるさとを代表する自然の森です。</p>
<p>玉壺</p>	<p>春日神社周辺の約 300m の区間の渓谷。文化 13 年 ( 1830 年 ) に完成した新編武蔵風土記稿によると、玉川の名前の由来となっています。武蔵国郡村誌 ( 明治 9 年の調査を基に編さん ) の比企郡玉川郷 ( 第 6 巻 201 ページ ) には「名勝 玉壺とは、春日神社の前面にあり、この付近の地形の総称を玉壺という」と記載されています。</p>
<p>三波渓谷</p>	<p>景勝地「三波渓谷」。ピクニック広場も整備され、バーベキューも楽しめます。都幾川四季彩館ではバーベキュー用品の貸し出しも行っております ( 有料 ) 。</p>
<p>三栖右嗣リトグラフ展示室</p>	<p>三栖右嗣氏はときがわ町在住の洋画壇屈指の画家。氏のリトグラフ ( 石版画 ) 作品を常時展示しています。「アスピアたまがわ」にあります。</p>

#### 4 ) 食どころ

場所	メニュー等	備考
<p>いこいの里 大附</p>	<p>天ぷら付きそば 850 円 天ぷら付きうどん 750 円 もりそば 600 円 もりうどん 500 円</p>	<p>そば(うどん)打ち体験 そば・天ぷら付 4,500 円(1 セット 5 人前) うどん・天ぷら付 4,000 円(1 セット 5 人前)</p>
<p>やすらぎの家</p>	<p>もりうどん 500 円 天ぷら付きうどん 800 円 温肉汁付けうどん 700 円 季節限定 きのこうどん 800 円 野菜天ぷら 300 円</p>	<p>うどん打ち体験 一日 4 組まで、要事前予約 1 組 2,000 円 (うどん 4~5 人前、つゆは別)</p>
<p>くぬぎむら体験交流館</p>	<p>ひもかわうどん 620 円 きつね寿司 100 円 セット 720 円 ぶっかけうどん(夏)620 円 田舎もりうどん(夏)520 円 冷汁ごまだれうどん 520 円</p>	<p>料理体験 「ひもかわ」と「きつね寿司」を作ります。 2~20 名様。3 日前までに予約。おひとり様 1,000 円。</p>

## 5) 遊び・体験活動

メニュー	内容等	備考等
ときがわでそば つくり体験	そばの種まき、草刈と花見 収穫、そば打ち体験	市民農園を活用し、ソバ打ちはくぬぎ むら体験交流館で行います。 先着 20 組 参加費 2,000 円/組
星空観望会	毎月第 2 4 金曜日 堂平天文台	無料 予約の必要ありません
みかん狩り	大附みかん山	10 月中旬～12 月料金 500 円 お土産付き(約 1kg)
星と緑の創造セ ンター(堂平天文 台) ログハウス、 モンゴルテント、 林業体験施設	宿泊・キャンプ・森林体 験・トレッキング	宿泊料金 ログハウス和室またはモンゴルテン ト小型 1 棟 10,000～14,000 円 モンゴルテント大型 12,000～16,000 円 ドーム内客室 13,000～17,000 円
木のむらキャン プ場	調理棟、シャワー棟、トイレ といった施設も充実し ています。オートサイト には区画ごとに電源や流し 場が併設され、家族・グル ープで思い出の 1 日を演出 できます。	入材料 高校生以上 300 円 中学生以下 200 円 バンガロー5～6人 6,000 円 テント 1,500 円、 テント持ち込み 1,000 円 など
上サ・スケート場	天然氷のスケート場	滑走券中学生以下 200 円 高校生以上 500 円 貸靴 中学生以下 300 円 高校生以上 500 円 シーズン券町内のみ 1000 円
工芸品体験	くぬぎむら体験交流館	まきわり、虫籠、たけとんぼ 本立て 布ぞうりなど
農業体験	ときがわ町市民農園 ・枝豆づくり・そばづく り・きのこ駒うち	くぬぎむら体験交流館でも行って います。
バーベキュー	・堂平天文台 星と緑の創 造センター ・木のむらキャンプ場 ・都幾川四季彩館	
釣り	年釣券 6,300 円、 日釣券(店頭売り)1,000 円 日釣券(現場売り)1,500 円	木のむらキャンプ場、建具会館で販売

## 6) 日帰り温泉

施設	内容	料金等
都幾川四季彩館	源泉名 都幾の湯 ナトリウム・塩化物温泉 PH 値 8.56	おとな 800 円 中学生まで 400 円 平日 午後 6 時よりおとな 500 円 中学生まで 300 円
湯郷玉川	アルカリ性単純泉	平日 おとな 700 円 小人 400 円 19:00 以降おとな 500 円 小人 300 円
都幾川温泉	日帰り温泉 2 部屋 1 日 4 組貸切風呂、貸切純和室部 屋 柚子薬膳料理	おひとり様 4 時間 9800 円 柚子薬膳料理、浴衣、タオル等付き 全国一の強アルカリ泉(PH11.3)

## 7) 宿泊(民間のみ)

名称	内容等	料金等
町田屋旅館	創業明治43年の老舗旅館。三菱財閥岩崎家ゆかりの宿。	素泊まり 4,000円 1泊2食 6,000円
かやの木		

## 8) 特産品

名称	内容等
1 のらぼう菜	「のらぼう菜」は、埼玉、東京(神奈川)の、山間地域で古くから栽培されてきた野菜です。ときがわ町では種子を毎年取ってきた限られた農家の食卓を賑わす程度の野菜として栽培が存続してきました。秋に種をまき、苗を移植し定植します。「のらぼう菜」の茎が立つ3月下旬ごろ「おひたし」などにして茎を食べます。霜を受けた「のらぼう菜」は味がよく、青菜の少ない時期の貴重な野菜です。代々、種子が受け継がれ240年近くも栽培が続いてきた理由はこのへんにあるのではないのでしょうか。
2 埼玉青なす	「埼玉青なす」は、昔は白ナスとも呼ばれ、明治時代に埼玉県に導入され、栽培されてきた黒紫色に着色しない丸なすです。昔は奈良漬用に経済栽培され、味噌汁や煮物用の食材として重宝されていました。果実は鮮緑色、巾着型で果重は200~300gと大きめです。収穫時期は7月中旬から10月上旬です。果肉がしまり、しっかりとした食感は煮物や焼きナスに最適で、今後、洋風の煮込み料理などの食材として利用を広めたい品種です。
3 原木きのこ	ときがわ町の「原木栽培」は山から切り出してきた原木から直接によきと生やす方法。原木栽培によって自然の栄養だけで育ったきのこは笠が分厚くミネラル豊富、味わうごとに森の香りが広がり、オーケストラの演奏のように口の中でハーモニーを奏でます。ナメコの原木栽培には通常のサクラやナラなど広葉樹の木が使われます。ときがわ町にはヒノキの間伐材がたくさんあり、この間伐材を何とか有効活用しようとして取り組まれたのが、「ヒノキでナメコの原木栽培」です。
4 山菜	ときがわ町内の直売所では、春になるとときがわ町の山で採れた、わらび、ゼンマイ、タラの芽などの山菜がたくさん売り出されます。ときがわ町の自然の味覚をぜひ味わってみてください。
5 木工品	ときがわ町は奥秩父山系を背にした自然豊かな町で、古くから森林と人とのつながりが強い地域であり、林業、製材業、木工業、建築業などの木材産業は、町の主要産業となっています。また、古来から歴史と伝統のある木工建具の里として栄えてきました。町の木工業は、関東最古の山岳寺院慈光寺の諸堂建設に伴い工匠と呼ばれ、そのまま現在の町内大字番匠に土着し、技術を伝えたのが始まりと云われ、大字番匠の地名因とともに建具産業の起源としても語り継がれており、以降は伝統技法を引き継ぎながら、時代とともに機械化との共存を図り、現在に至っています。

## 9) 公共交通機関

交通機関名	主な路線
1 ときがわ町路線バス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小川町～明覚駅～役場第二庁舎前～竹の谷</li> <li>・越生駅～役場第二庁舎前～日向根</li> <li>・越生駅～役場第二庁舎前～慈光寺</li> <li>・越生駅～役場第二庁舎前～大附そば道場前</li> </ul>
2 イーグルバス嵐山線	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日影終点～武蔵嵐山駅</li> <li>・役場第二庁舎前～武蔵嵐山駅</li> </ul>

## 町有施設の概要

### 1) ふれあいの里たまがわ

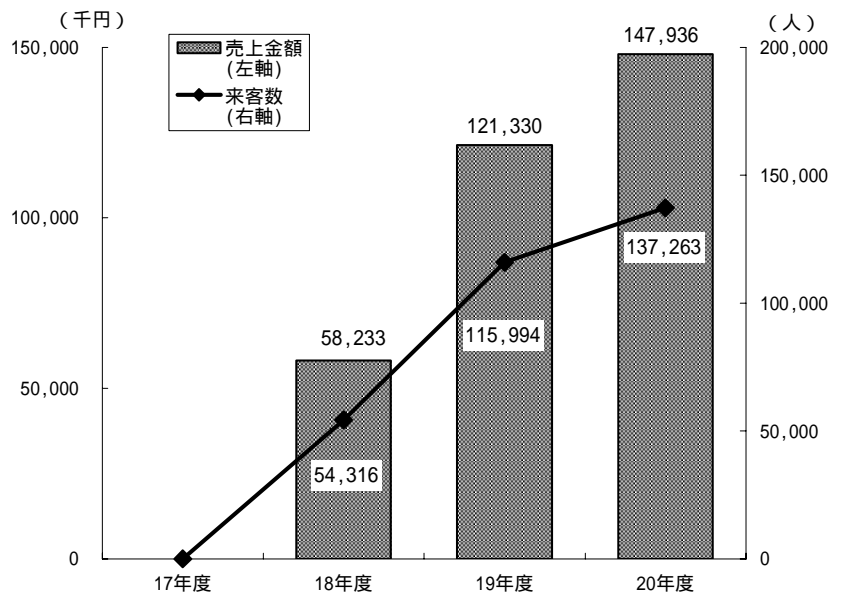
玉川陣屋をイメージしてつくられた、地域おこしの拠点施設です。地元農産物直売や特産品販売施設のほか、イベントも開催しています。



#### 年度別の推移

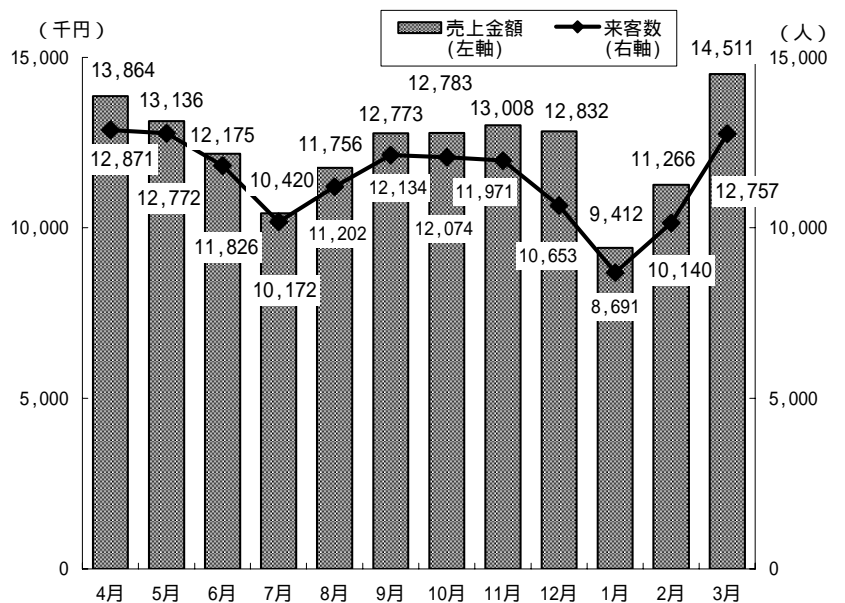
年度別にみると、毎年、来客数の増加とともに、売上金額も増加傾向にあります。

20年度の来客数は、15万人程度あり、客単価は930円程度になります。しかし、木のむら物産館の客単価1,300円と比べるとやや低い状況です。



#### 月別の推移 (20年度)

月別にみると、年間を通じて利用されています。その中で、7月と1月の利用がやや落ち込みます。



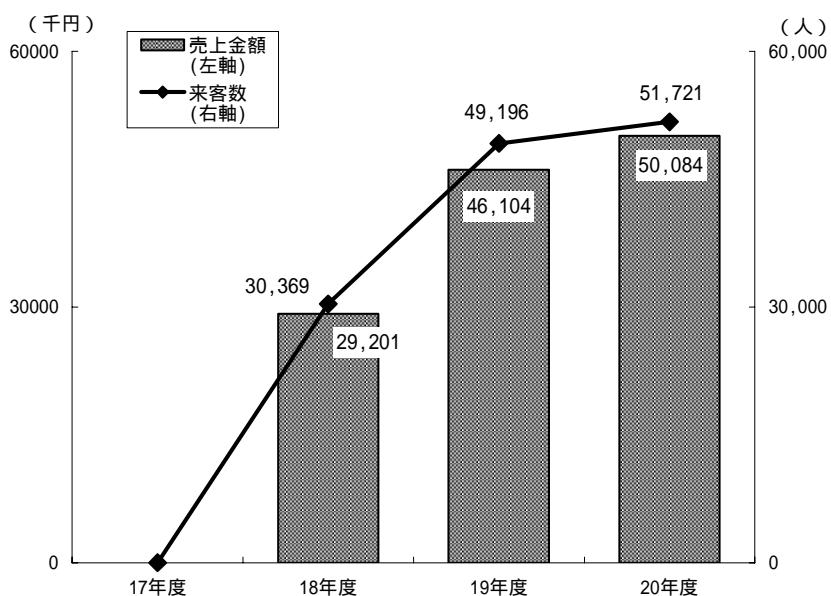
## 2) 都幾川四季彩館

三波溪谷のほとりに、古民家を移築してつくられた温泉施設です。本物の自然の中で良質の温泉を楽しむことができます。



### 年度別の推移

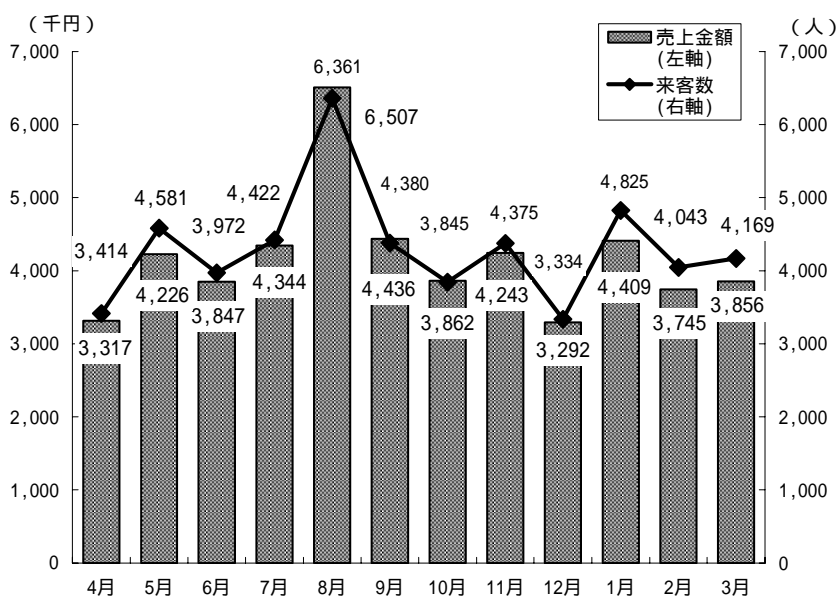
年度別にみると、会館以来増加傾向が続いています。20年度は、約5万人の来客数に対して、5,200万円ほどの売上金額があり、客単価は1,030円程度になります。



### 月別の推移 (20年度)

月別にみると、年間を問わず比較的利用されていますが、特に8月の利用が多くなっています。

しかし、冬の時期についても一定して利用されています。



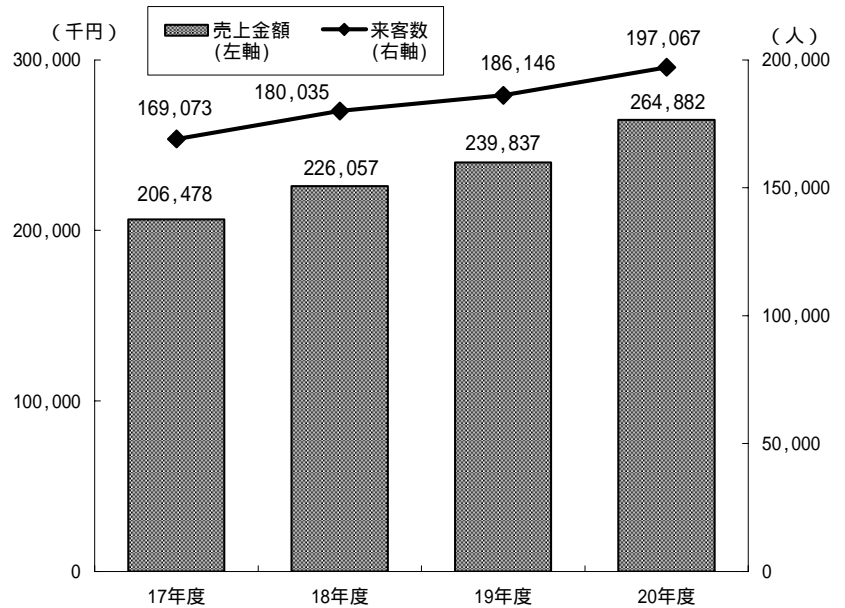
### 3) 木のむら物産館

木の温もりを感じる農産物直売施設です。新鮮な野菜等を販売しています。ときがわのファンでいつもにぎわっています。



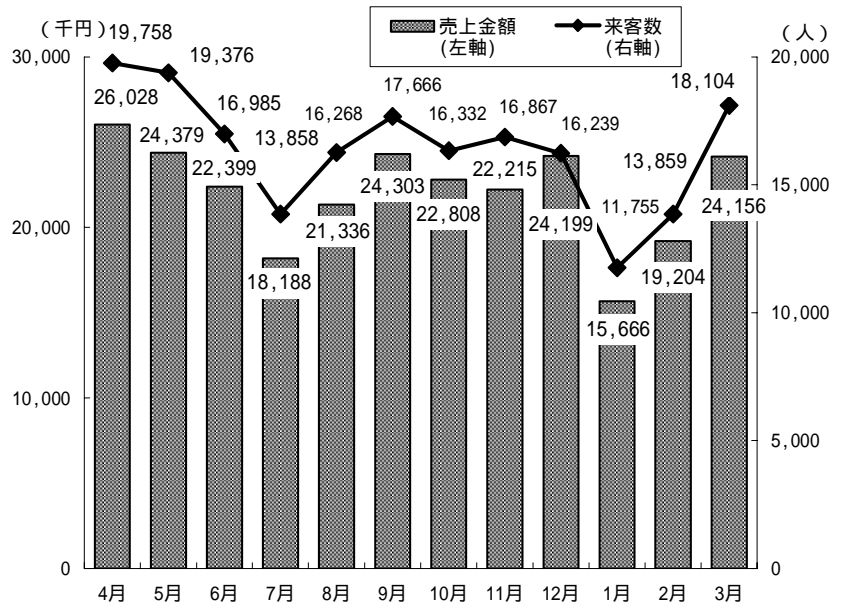
#### 年度別の推移

年度別にみると、毎年、来客数の増加とともに、売上金額も増加傾向にあります。20年度の来客数は、約20万人あり、客単価は1,300円ほどで比較的高くなっています。



#### 月別の推移 (20年度)

月別にみると、年間を通じて利用されていますが、特に7月と1月及び2月の冬の時期に利用がやや落ち込みます。





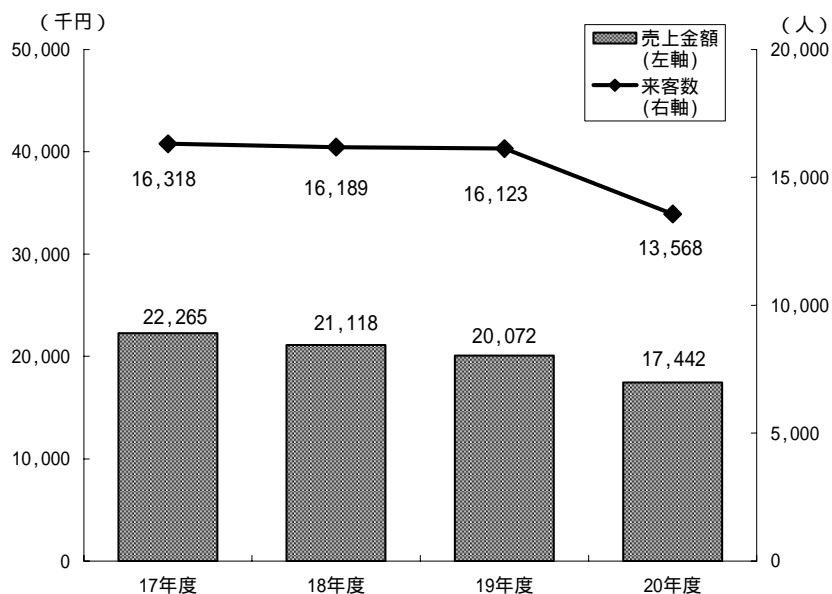
#### 4) いこいの里大附(そば道場)

「そば道場」と呼ばれ、そば打ちを気軽に体験できる施設です。そばを提供しているほか、近くにみかん狩りを楽しめる農家が10件ほどあります。



##### 年度別の推移

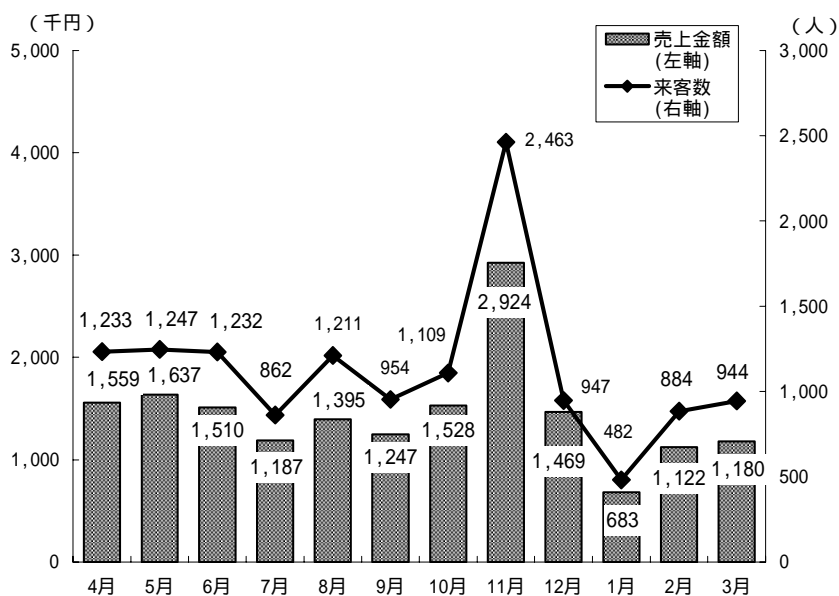
年度別にみると、19年度にかけて、ほぼ一定の利用状況でしたが、特に20年度は利用が落ち込んでいます。客単価はやや減少しており、20年度は、やすらぎの家と同様1,100円程度です。



##### 月別の推移(20年度)

月別にみると、11月のみかん狩りのシーズンの利用が特に多くなっています。

また、その他の時期は、比較的年間を通じて利用されています。



## 5) やすらぎの家

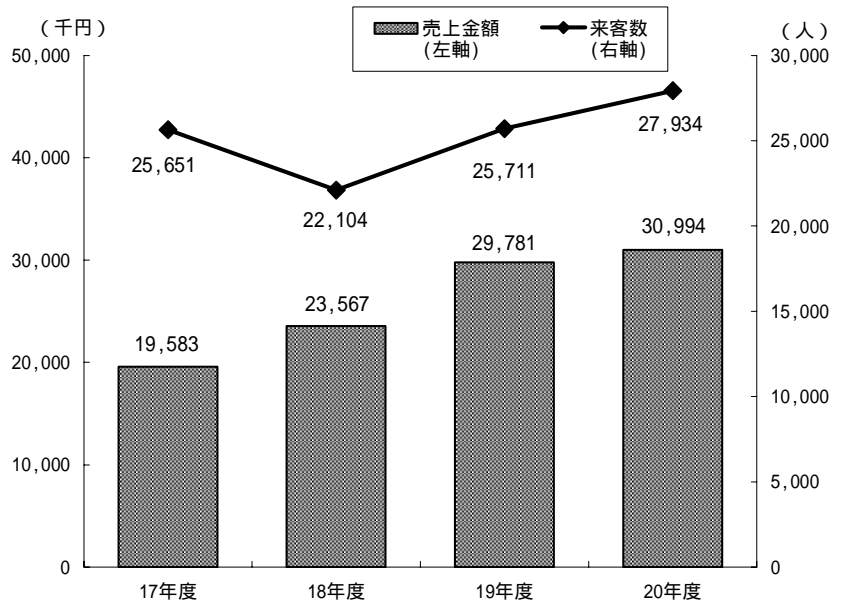
100年以上前に建てられた民家を移築した農山村交流施設です。うどん打ちやひもかわ作りのほか、2階がギャラリーになっています。手打ちうどんが食べられます。



### 年度別の推移

年度別にみると、近年、来客数の増加とともに、売上金額も増加傾向にあります。

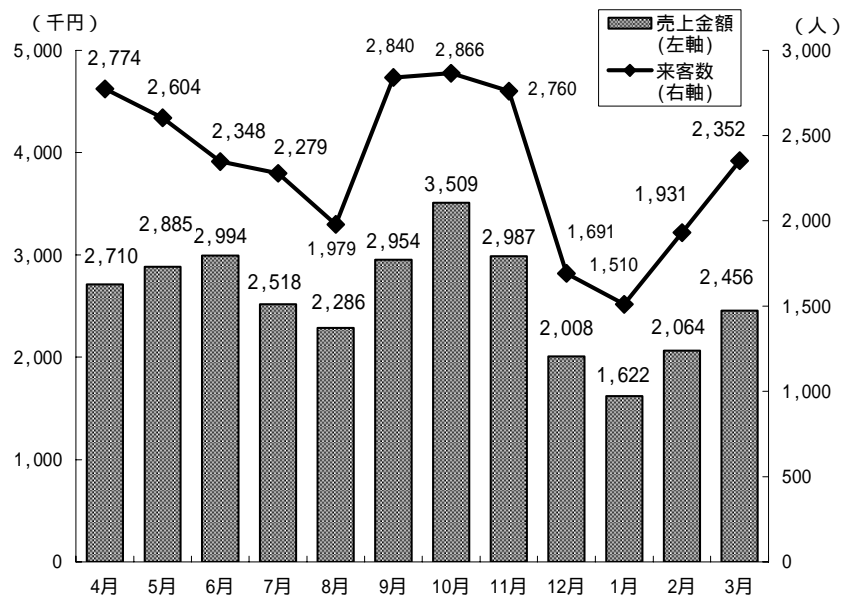
20年度の来客数は前年度よりも2千人ほど増加しています。また、客単価は1,100円程度です。



### 月別の推移 (20年度)

月別にみると、7月と8月の夏の時期と12月から2月の冬の時期に利用が落ち込みます。

一方で、9月から11月の秋の時期は利用が特に多くなっています。



## 6) 建具会館

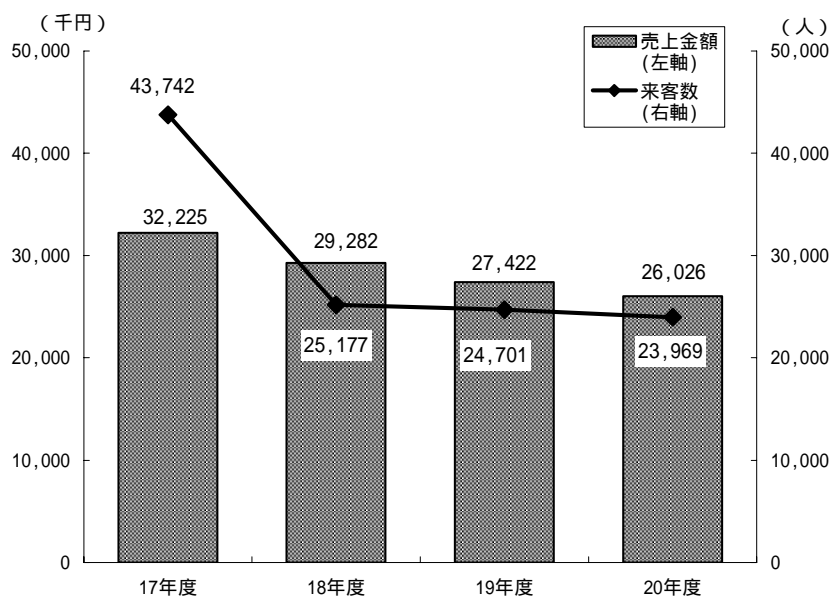
建具の展示・販売のほか、木工製品や地域特産品、お土産品等も多数取揃えています。また、建具等のオーダーメイドにも対応しています。



### 年度別の推移

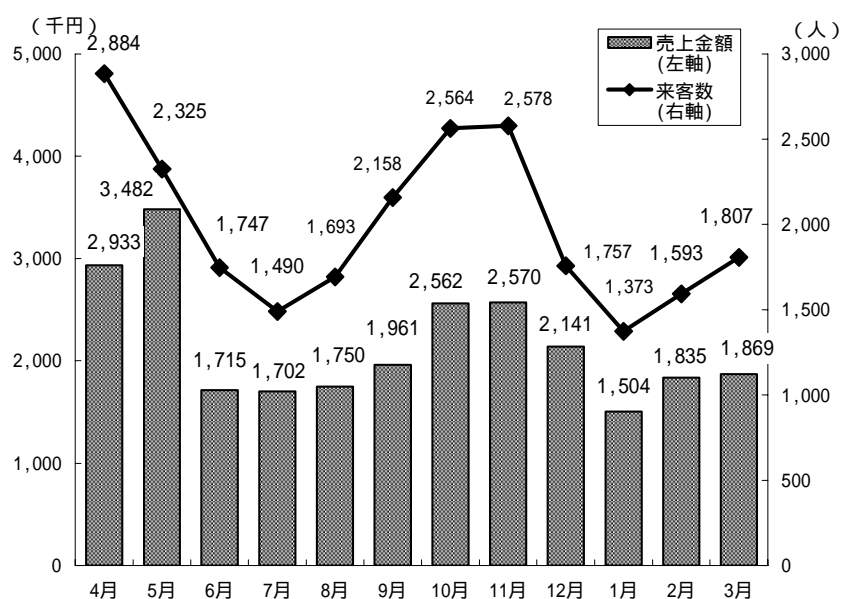
年度別にみると、毎年2万人以上の来客数があり、2千600万円ほどの売上金額をあげていますが、近年は来客数ともにやや微減傾向にあります。

20年度の客単価は920円ほどです。



### 月別の推移 (20年度)

月別にみると、年間を通じて利用されていますが、特に4月と5月の春の時期と、10月と11月の秋の時期に、利用が多くなっています。



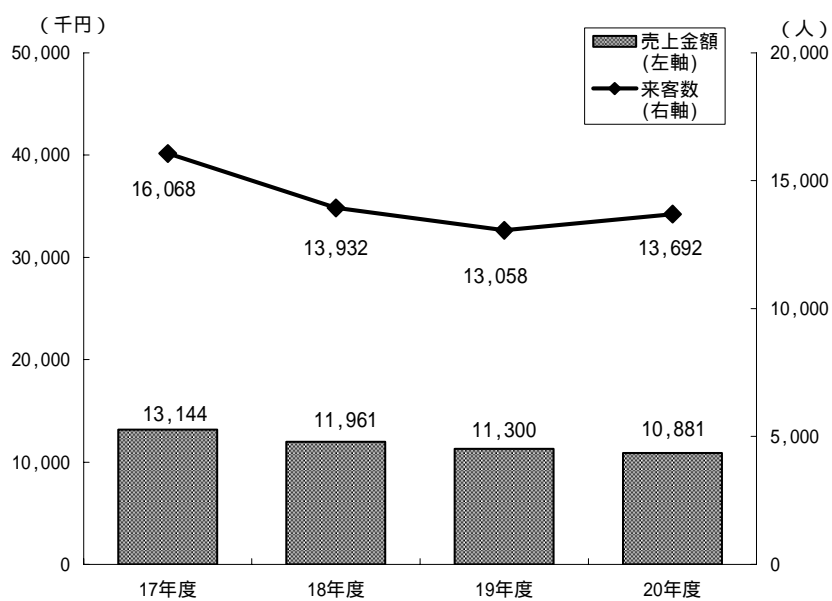
## 7) 大野特産物販売所

八角形の建物が特徴的な特産物直売施設です。山里で採れた山菜やきのこ、のらぼう菜が人気です。



### 年度別の推移

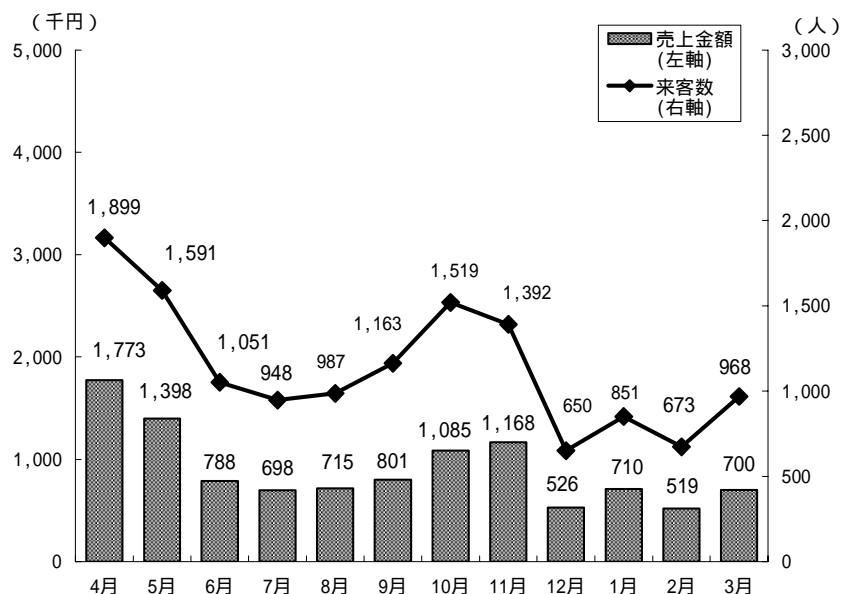
年度別にみると、近年はほぼ一定の利用状況となっており、約1万4千人の来客に対して1千万円の売上金額があります。客単価は800円ほどです。



### 月別の推移 (20年度)

月別にみると、4月と5月の初夏と10月と11月の秋の時期に利用が特に多くなっています。

また、冬の時期は特に利用が落ち込みます。



## 8) 木のむらキャンプ場

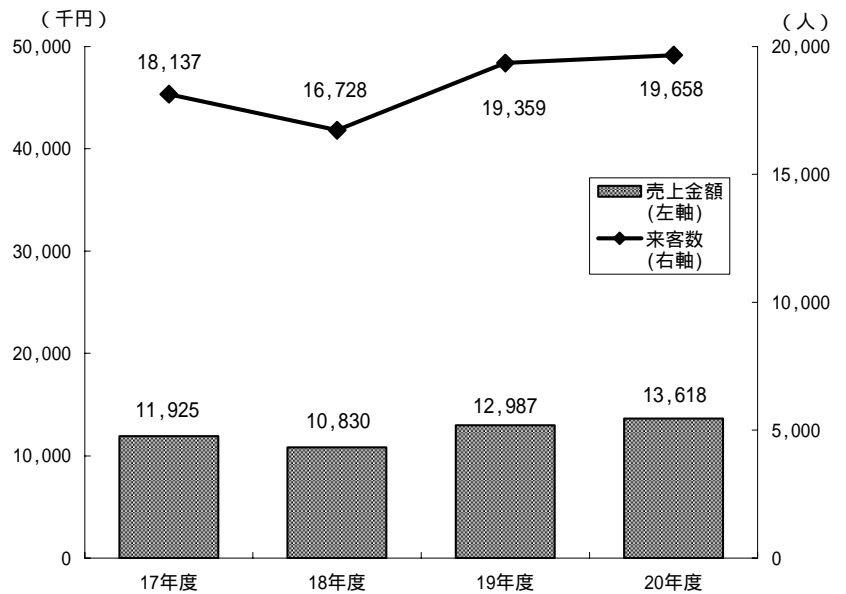
渓谷沿いに広がる緑の木々に囲まれたキャンプ場です。川遊び、バーベキューに最適です。ログハウスのバンガローとオートサイトがあります。(開所期間は4月から10月)



### 年度別の推移

年度別にみると、年間2万人ほどの来客数があり、売上金額は1,300万円ほどあります。

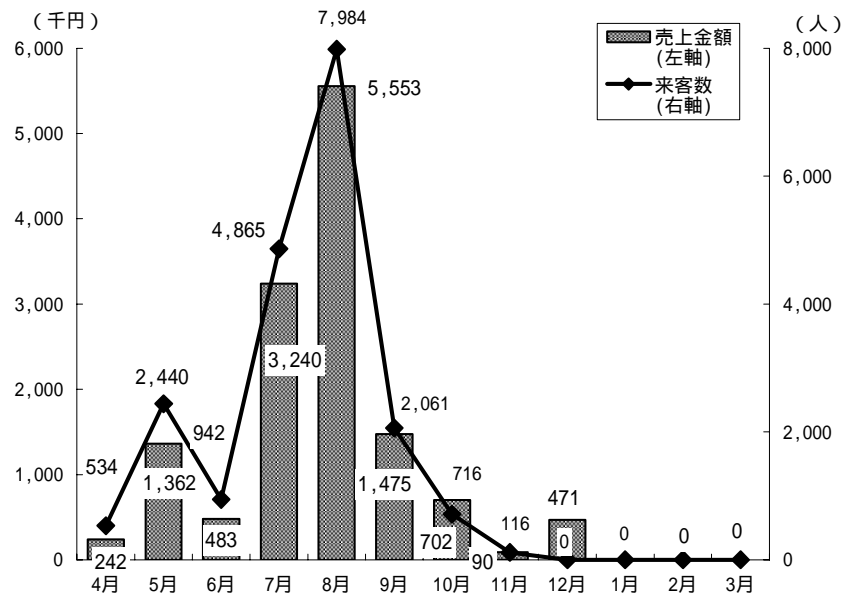
また、客単価に換算すると、20年度は700円ほどになります。



### 月別の推移 (20年度)

月別にみると、星と緑の創造センターと同様に、7月から8月にかけての夏休みシーズンの利用が大半を占めています。

しかし、5月や9月も比較的利用があります。



## 9) 星と緑の創造センター（堂平天文台）

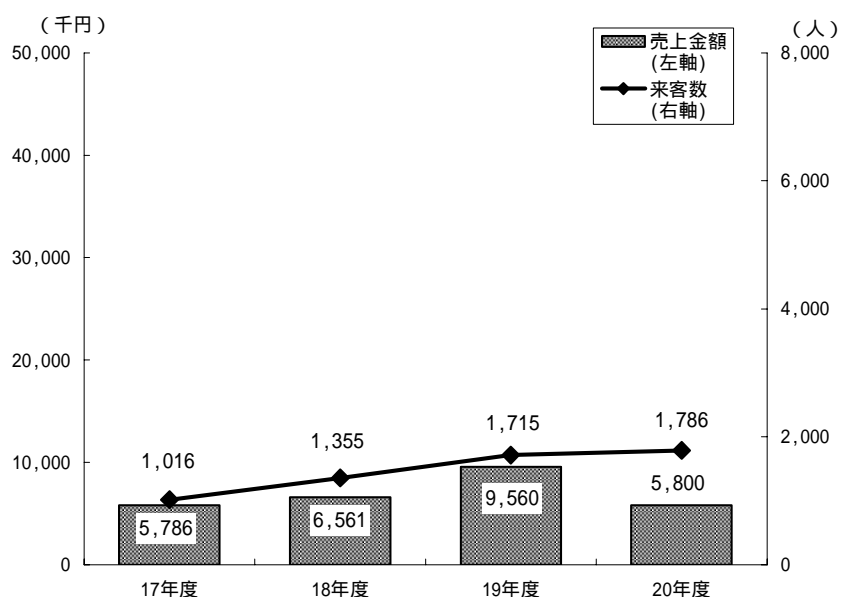
旧国立天文台をリニューアルしています。施設にはログハウス、モンゴル風テントがあり、山頂でのキャンプやハイキングが楽しめます。星空観測会も定期的に開催しています。



### 年度別の推移

年度別にみると、来客数はやや増加傾向にあります。20年度の売上金額は580万円ほどに止まりました。これは、17年度～20年度にかけて、林業関係事業を縮小したため、たきぎ等の林産物の販売が大幅に減ったことによるものです。

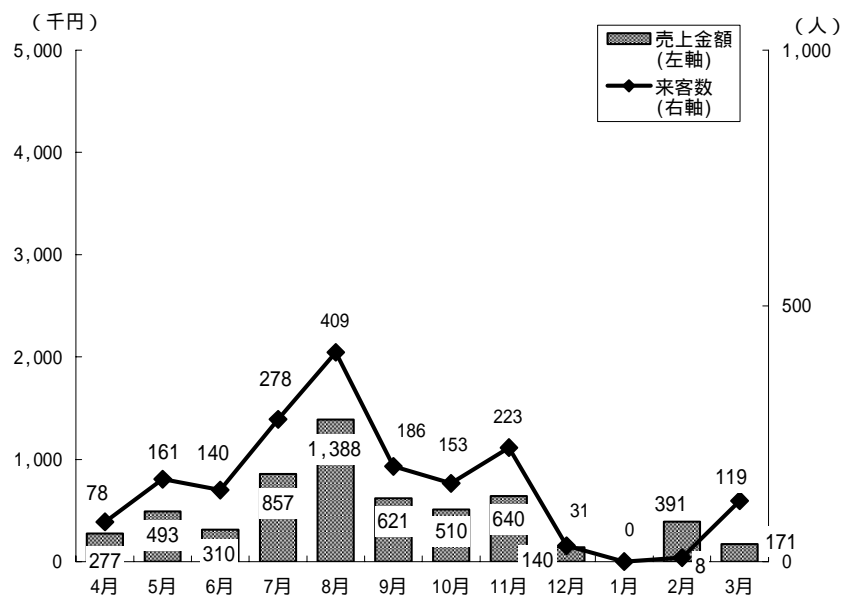
また、客単価に換算すると、20年度は3,200円ほどになります。



### 月別の推移（20年度）

月別にみると、7月から8月にかけての夏休みシーズンの利用が多くを占めており、冬の時期は利用が極端に少なくなります。

しかし、11月については比較的利用があります。



## 10) くぬぎむら体験交流館

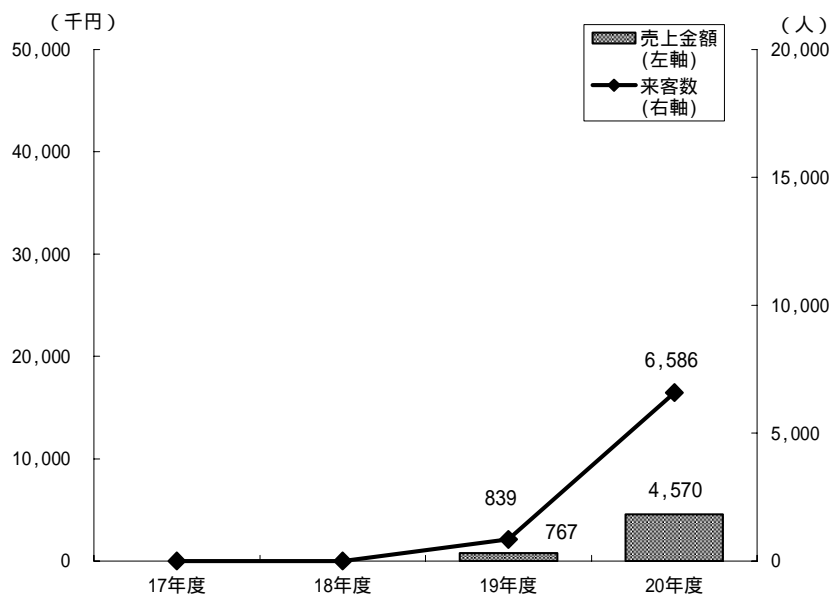
平成 20 年 2 月にオープンした山村体験を楽しんでいただく施設です。豊かな自然の中で、山間の農業や工芸品製作の体験、また郷土料理を味わうことができます。



### 年度別の推移

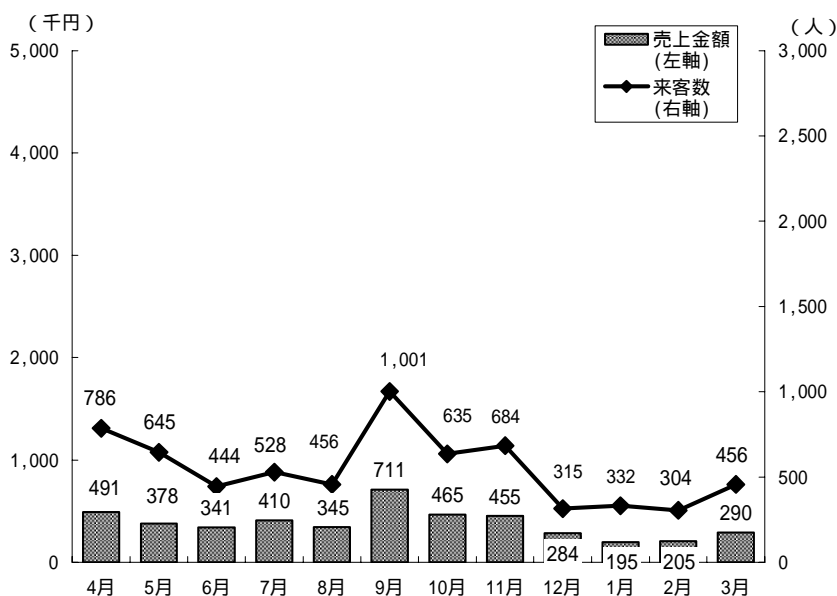
19 年度末のオープンであるため、比較できませんが 20 年度は 6,500 人ほどの来客数があり、売上金額も 460 万円程度あります。

また、客単価でみると、700 円程度になり、やすらぎの家や、いこいの里大附と比べるとやや低くなっています。



### 月別の推移 (20 年度)

月別にみると、20 年度は年間を通じて利用されていますが、特に 9 月の利用が多くなっています。



## ときがわ町観光の楽しみ方（ワークショップで提案されたモデルコース）

検討委員会のワークショップにおいて、具体的な提案として、以下のような観光コースや楽しみ方、ポイントなどが検討されました。

### 1) 初冬の楽しみ方

- ・ときがわの文化体験的なもの
- ・ときがわの12月のひだまりツアー
- ・あったかツアー、癒されそうなもの（時間がゆっくり）等々

『時期』 12月初旬から1月（初冬）の1日観光

『対象』 ファミリー層

	場 所	素 材 (食べる・見る・体験する)	概 要
午前	大附みかん山 (そば道場、後野)	みかん狩り体験 はやと瓜試食 コンニャク試食 原木ヒノキでナメコ試食	まずは、ときがわの自然と味覚を体感
	慈光寺周辺	案内人 人	ときがわのルーツを知ってもらう機会
お昼	やすらぎの家 (くぬぎむら体験交流館)	ひもかわうどん お餅(きな粉餅)	昼食食事 餅つき(土日のイベント)
午後	里山ハイキング	旧玉川(どんぐり山) 小倉城の大きな松ぼっくり拾い くず、アケビのツル拾い 小昼飯(ジュワソ) お茶おけ お手のこう(梅干+砂糖)	腹ごなしに里山を散策 (スダジイの北限) 建具会館の材料+リースの材料集めなど 案内人から説明を受けながら
	都幾の湯 (湯郷玉川)	入浴体験 「ときがわ温泉湯どうふ」 を湯上りに。ゆずを薬味に。	温泉でゆっくり疲れを癒してもらう



## 2) 観光拠点からの楽しみ方

- ・ときがわ観光の拠点となる場所を起点・終点とした散策コース
- ・各観光拠点までは公共交通機関を利用する
- ・隠れたときがわの歴史や文化を知る 等々

『時期』 四季を通じた日帰りの観光ルート

『対象』 主に公共交通を利用した観光客

拠 点	主なコース
ふれあいの里たまがわ	『歴史と温泉』 諏訪神社・明王院～小倉城（国指定比企城館跡）～湯郷玉川～春日神社～ふれあいの里たまがわ
J R明覚駅	『入比札所めぐり』 馬場徳昌院（桜）～第二踏切道標～入比4 仏堂跡（パン屋）～観音堂（流錫馬）～愛宕山下～入比3 皎円寺（写経、座禅）～桃木八幡～都幾川四季彩館～八剣神社～入比8 都地波堂～入比7 観音寺～都幾川沿い～J R明覚駅
木のむら物産館	『花木めぐり』 桃木八幡～大附そば道場（分校あとの桜）～日枝神社～大カヤ～萩日吉神社（児持杉、社叢）～建具会館～慈光寺歴史公苑の桜～雲河原～別所～都幾川四季彩館～木のむら物産館
建具会館	『夏のトレッキング』 大野物産販売所～白石峠～堂平～トレッキングコース～七重堰堤～霊山院・慈光寺～建具会館

## 検討委員会の要綱、名簿等

### ときがわ町観光振興計画検討委員会設置要綱

#### (設置)

第1条 本町の観光振興に関する諸施策を、総合的かつ計画的に策定するため、ときがわ町観光振興計画検討委員会(以下「検討委員会」という。)を設置する。

#### (所掌事務)

第2条 検討委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 本町における観光振興計画策定に関すること。
- (2) その他観光の振興に関すること。

#### (組織)

第3条 検討委員会は、委員20人以内をもって組織し、町長が委嘱する。

#### (任期)

第4条 委員の任期は、ときがわ町観光振興計画の策定が完了するまでの期間とする。

#### (委員長及び副委員長)

第5条 検討委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により定める。

- 2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

#### (会議)

第6条 検討委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

- 2 検討委員会は、委員の過半数をもって成立する。
- 3 委員長は、必要があるときは、関係者の出席を求めることができる。

#### (庶務)

第7条 検討委員会の庶務は、ときがわ町産業観光課において処理する。

#### (その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、検討委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が定める。

#### 附 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

ときがわ町観光振興計画検討委員名簿

	委員氏名	ふりがな	所属団体等	所属団体の 役職	検討委員 会の役職
1	長島 良男	ながしま よしお	ときがわ町議会	議員	委員
2	佐伯 頼栄	さえき らいはい	ときがわ町観光協会	会長	副委員長
3	関和 常夫	せきわ つねお	ときがわ町商工会	会長	委員
4	山崎 清司	やまざき きよし	ときがわ町農業推進協議会	会長	委員
5	荒井 保雄	あらい やすお	ときがわ町町有施設連絡協議会	会長	委員
6	土井 幸平	どい こうへい	大東文化大学	環境創造 学部教授	委員長
7	吉野 優子	よしの ゆうこ	文化財保護審議会	委員	委員
8	関口 章	せきぐち あきら	ときがわ町	副町長	委員
9	縄田 敬子	なわた けいこ	埼玉県川越比企地域振興センター 東松山事務所	地域振興 担当部長	委員
10	渡邊 一美	わたなべ かずみ	有限会社とうふ工房わたなべ	代表取締役	委員
11	山本 悦男	やまもと えつお	NPO もりんど	会長	委員
12	松本 治夫	まつもと はるお	埼玉県中央部森林組合	統括	委員
13	石井 唯之	いしい たけゆき	株式会社農協観光	グリーンツーリ ズム事業本部課 長代理	委員
14	本多 快次	ほんだ よしつぐ	イーグルバス株式会社	営業本部長	委員

## ときがわ町観光振興計画検討委員の後記（敬称略）

### 【まとめ】

委員長 土井幸平

昨年の夏からこの3月まで、毎回活発な委員会でした。5回の予定が6回になり、2時間の予定が3時間を越えるときもありました。ときがわ町に対する各委員の愛着の想いや責任感が伝わり、多くの有益な計画提案と意見交換が行われました。意見のずれもままありましたが、意見交換によってかえって内容が深まりました。印象に残った発言を一つあげますと、これからの観光は地域の元気を見てもらうこと という発言でした。

委員各位の真剣な発言に敬意を表しますとともに、各委員からの多彩な提案を本計画案によくまとめて下さった事務局と作業班に感謝したいと思います。

こうして出来上がった“ときがわ町観光振興計画”ですが、この計画は施策の枠組みを示した段階です。計画の具体化や施策の推進にあたっては、多くの町民と、農業、林業、商工業、観光協会など関係事業者の参加と連携の下で、町ぐるみの元気な取り組みをお願いしたいというのが各委員の共通の想いです。

### 【策定後記...検討委員の皆さまからのメッセージ】

副委員長 佐伯頼栄

観光振興計画策定にあたり、先ず第一に若い人達の活力を生かせる場所と、年配の人達との密接な関係が望まれる。地域が潤い、負担のない政策が不可欠であり、できる範囲からの早期実行が望まれる。

委員 長島良男

町外有識者を交えた委員会であり、町外から見たときがわ町観は参考になった。また、町有施設をはじめ文化財等の観光資源の多さに感動した。この資源を観光施設の関係者はもとより、町民が認識を深め来訪者を迎えることが大切である。

委員 関和常夫

本計画に盛り込まれた課題や計画の推進には、ときがわ町商工会としても多くの係わりが生まれます。その内容を商工会組織として共通認識する上で、計画が達成されるよう委員の一人としても強く望みます。

委員 山崎清司

どこから来たの？ときがわ、どこらへん？あまりにも知名度の低いときがわ町が、全県下、できれば全国に知られる故郷になるよう、山を利用して大木を育て、花をたくさん育て、河津桜やシュウカイドウが咲き、若い人達が参加し定住のできる町にしたい。

委員 荒井保雄

都幾山に源を発する歴史と里山の息吹を実感できる故郷(くに)づくりが実現できたらと願っております。木と農の循環型経済と観光とのコラボレーションの推進のために乾杯せられんことを祈って…。

委員 吉野優子

森林・里山・寺社・文化財を融合させ、子供からお年寄りまで楽しめるコンパクトな空間を生かし、町を訪れる方々へ「癒しの空間」を提供できる町にしていきたい。50年後、100年後でも“ときがわ町”が残っていますように願っています。

委員 縄田敬子

観光振興が、ときがわ町の地域産業全体を活性化するために重要な要素であることについて住民の理解を深め、事業者や住民団体等と連携・協力し、計画に沿って事業を実施されることを期待します。

委員 渡邊一美

観光事業は入れ込み観光客数に一喜一憂する。でも、その中身は一見客もおれば、リピーター客もある。重要なのはリピーター客の創出である。彼らは、景観や施設の充実と併せて地域住民とのコミュニケーションを求めている。

委員 山本悦男

町の魅力の一つ「里山の自然と文化に磨きをかけ活かす」を念頭に、町民誰もが参加でき、町の活性化につながる計画を目指した。今後、町民参加の仕組み作りと、町民自らがいかに地域を再発見し、伝え得るかが課題。

委員 松本治夫

現在のときがわ町は観光地としての知名度はあるが、温泉施設や直売所等、観光の売物が分散している為、観光客を一網打尽に取り込むことが難しいと思われる。今後はこれらの一体化を計り顧客増大を図ることが望まれる。

委員 石井唯之

ときがわ町の自然をはじめとした多くの観光資源は、町民の方々はもとより訪れる人々をホッとさせてくれる魅力があります。この資源の本資が失われず、一層活力のある元気いっぱいの町になることを願っています。

委員 本多快次

観光振興計画の中で、特に重要なのは「健康」というキーワードに関連する地元特産品の開発と考えます。併せて低農薬の地元ならではの農産物や加工品の販売も必要です。また、公共交通機関の利便性向上といたしまして、観光交通の充実を進めなければなりません。観光振興計画と地域公共交通総合連携計画との方向性を一致させることが必要だと思えます。

「ときがわ町観光振興計画」

平成22年3月

編集・発行 / ときがわ町産業観光課

埼玉県比企郡ときがわ町大字桃木32番地

TEL 0493(65)1521

FAX 0493(65)3629